

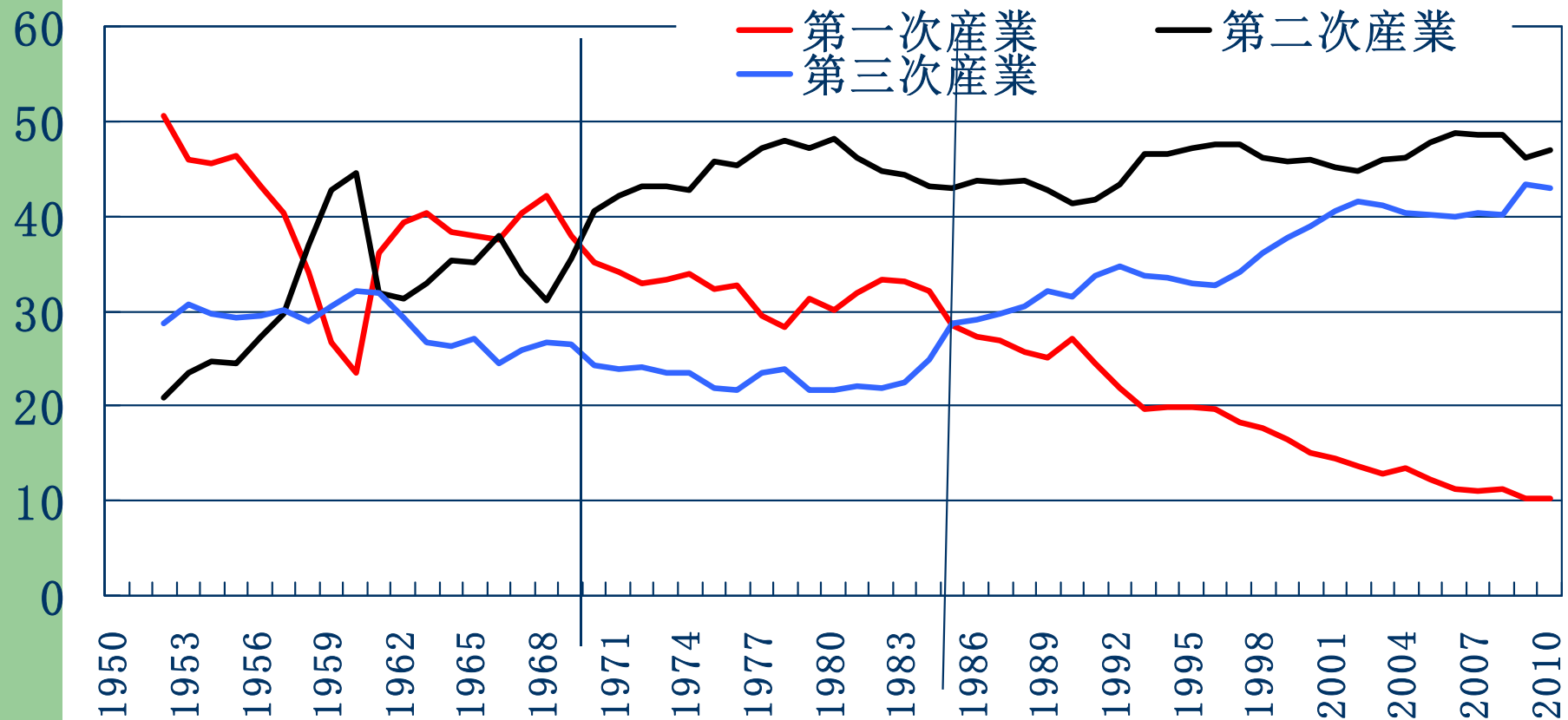
2010-2030年中国産業構造の変化動向 に対する展望

国務院発展研究センター
対外経済研究部 趙晋平

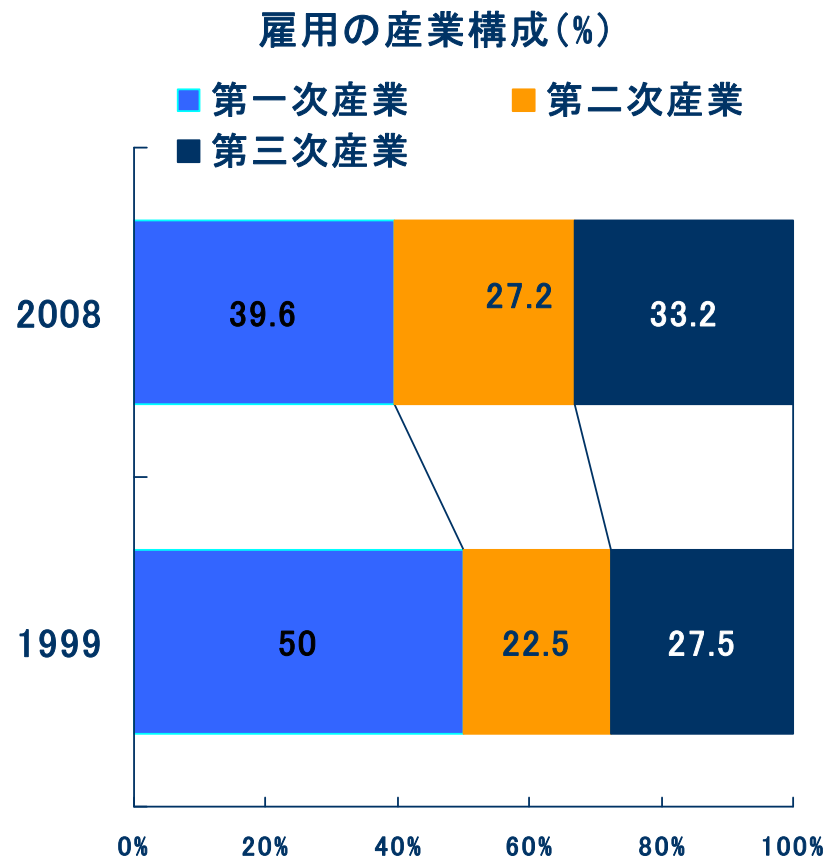
主な内容

- 過去二十年における中国の産業構造の変化の主な特徴
- 産業構造の調整において直面する新たな状況と重要課題
- 2010-2030年産業構造の変化動向に対する展望

中国の産業構造の変化動向（付加価値比率による計算）



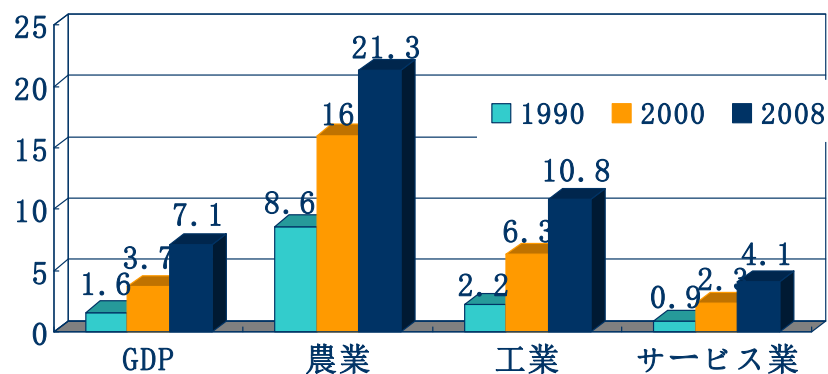
雇用構造の変化動向



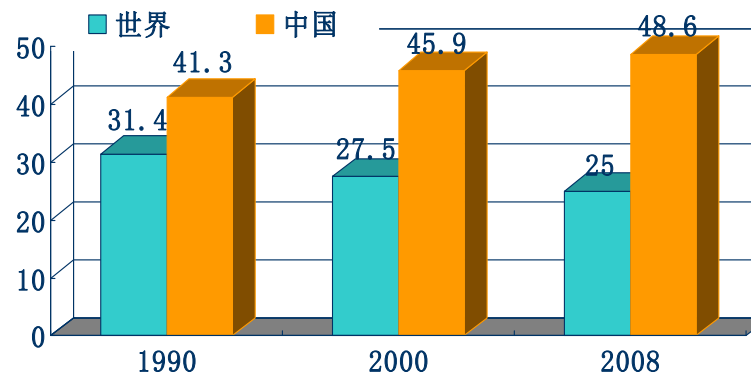
- 雇用構造は経済構造とかなり大きな開きがあり、第一次産業の比率が高すぎ、第二・第三次産業の比率が低すぎる。
- 現在、第一次産業の一人当たり付加価値は第二次産業の16%、第三次産業の24%に相当するのみで、明らかにこれら2つより低い。このため、第一次産業から第二・第三次産業への労働力移動が比較的長期にわたりトレンドとなるだろう。

中国のGDPと主要産業の世界における地位が明らかに上昇 —世界銀行の当該年の米ドル価格による付加価値統計に基づき計算

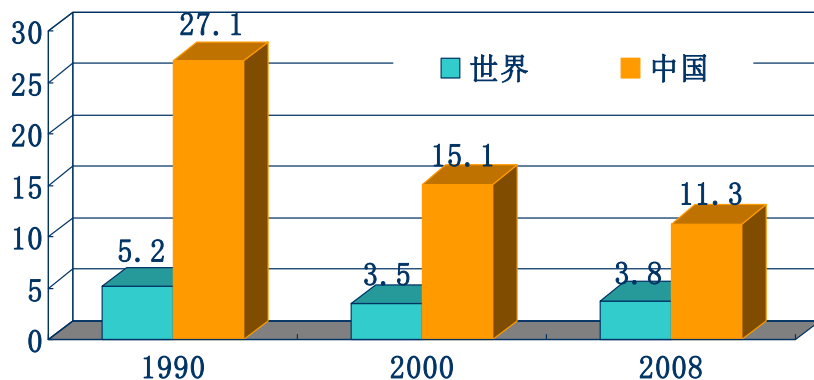
主要産業付加価値が世界に占める比率 (%)



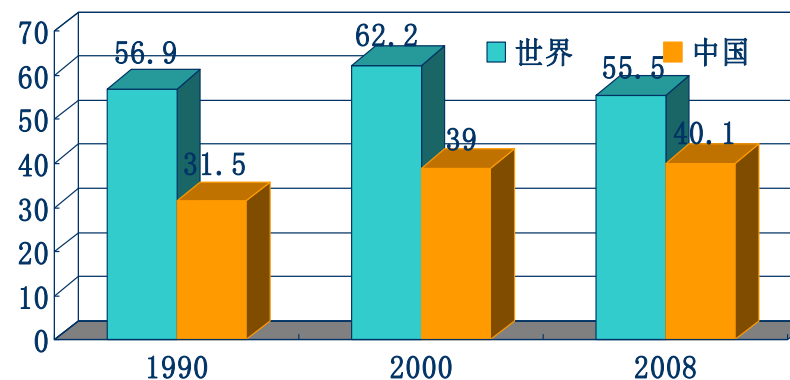
工業付加価値がGDPに占める比率 (%)



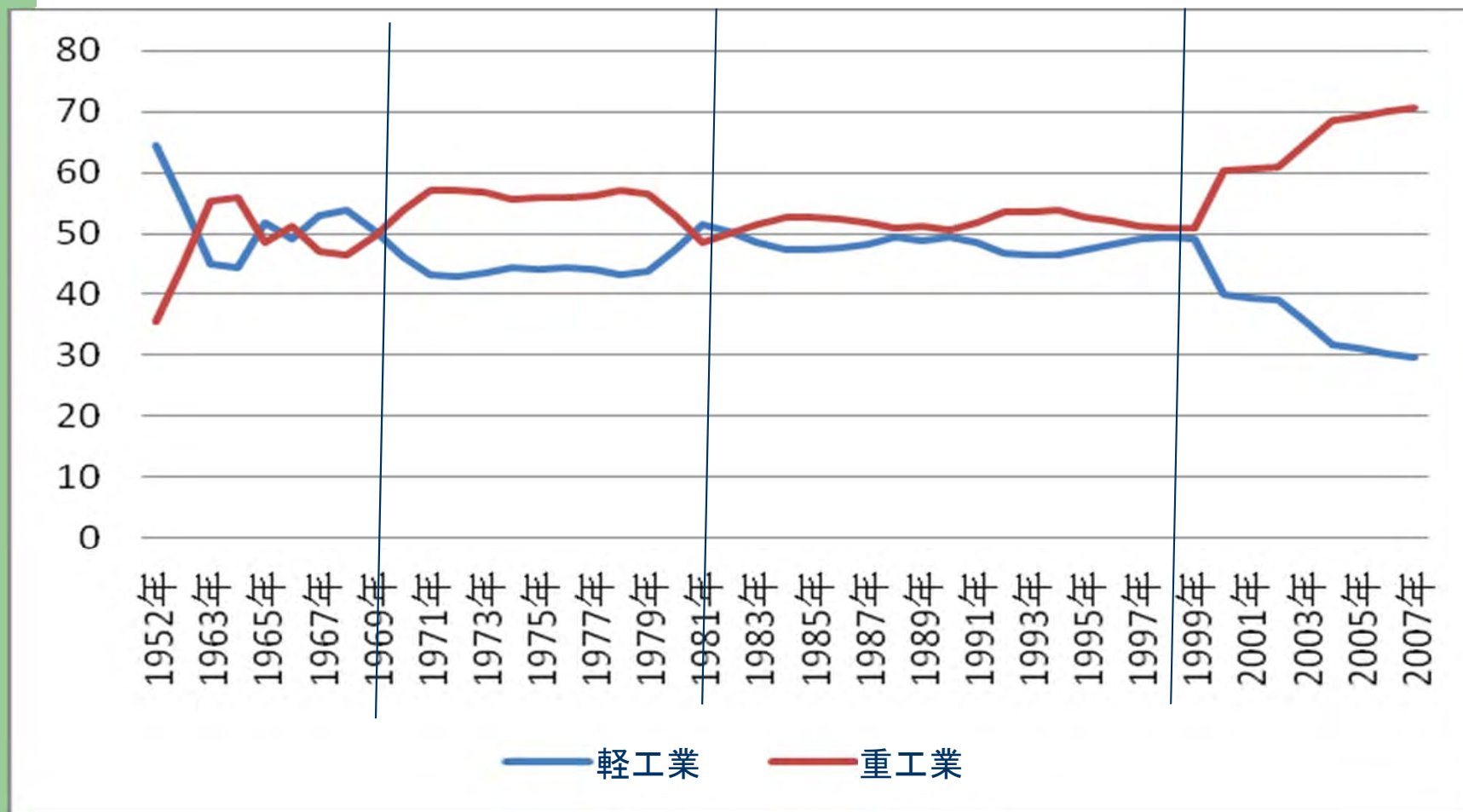
農業付加価値がGDPに占める比率 (%)



サービス業付加価値がGDPに占める比率 (%)

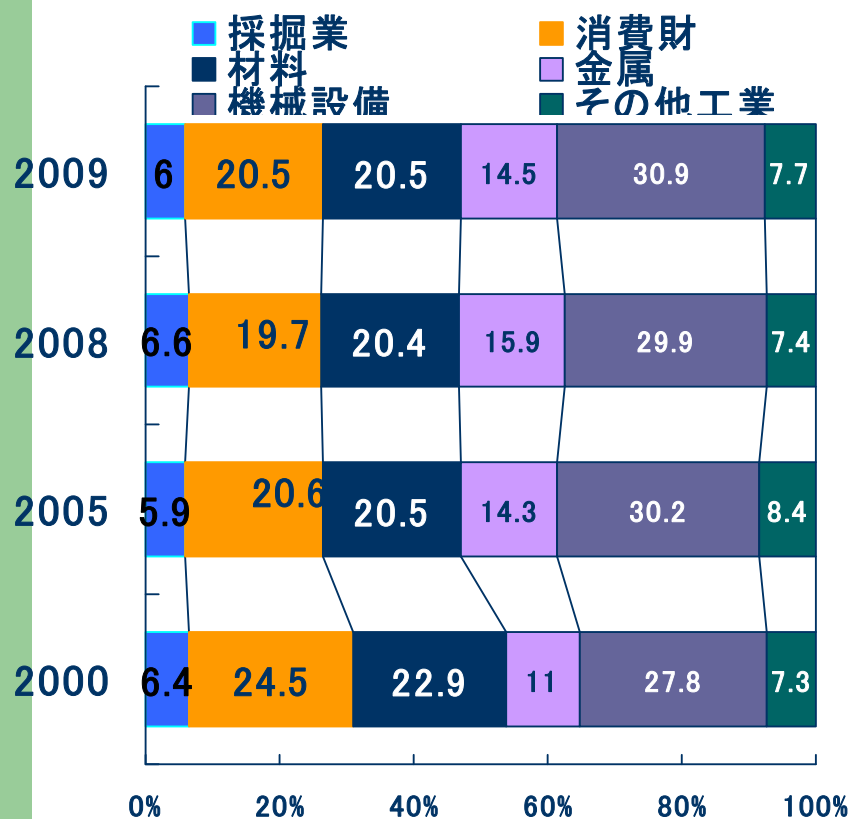


アジア金融危機後、中国は新たな重化学工業化の段階に突入

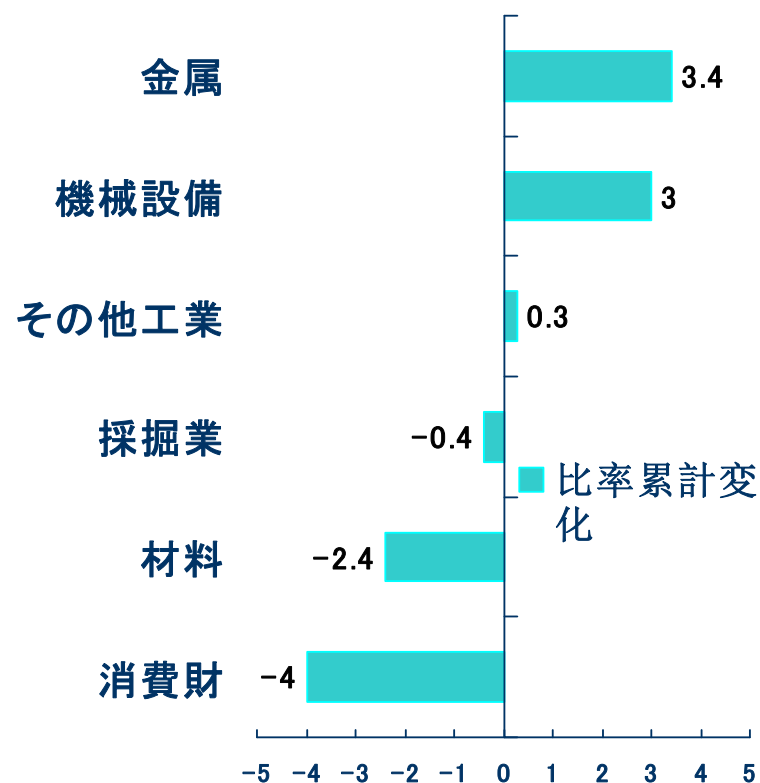


工業の構造変化の特徴は金属および機械製造業の比率上昇

工業産業構造(%)

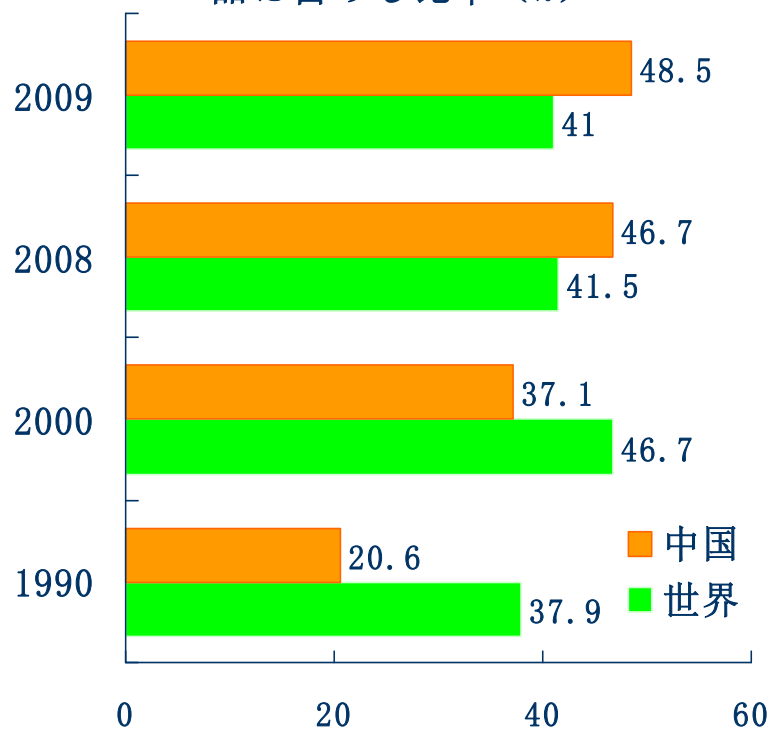


2000-09工業化比率の変化(ポイント)

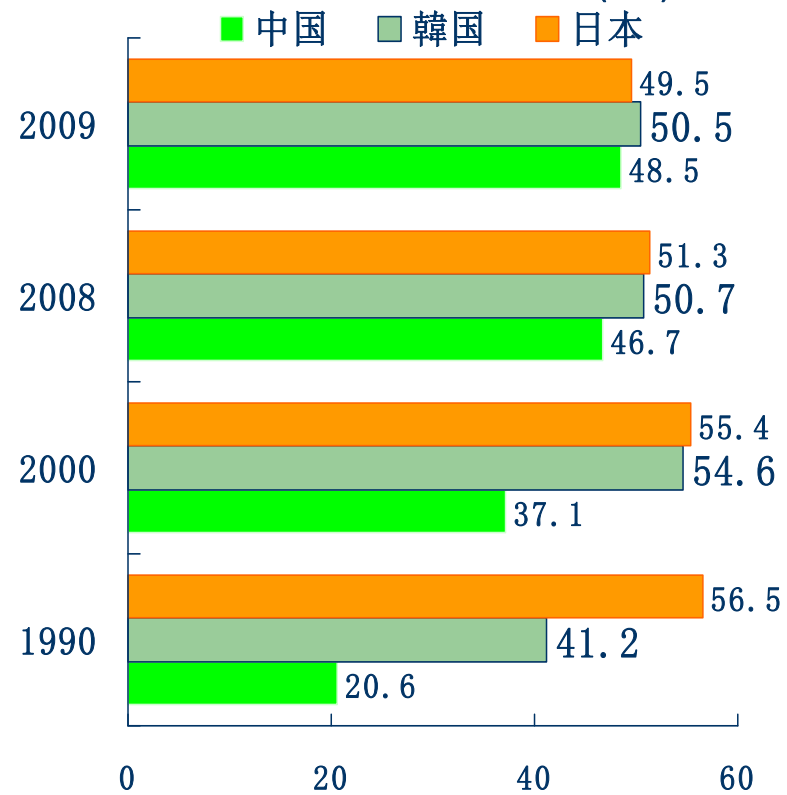


中国の工業構造のグレードアップは 明らかな効果をあげている

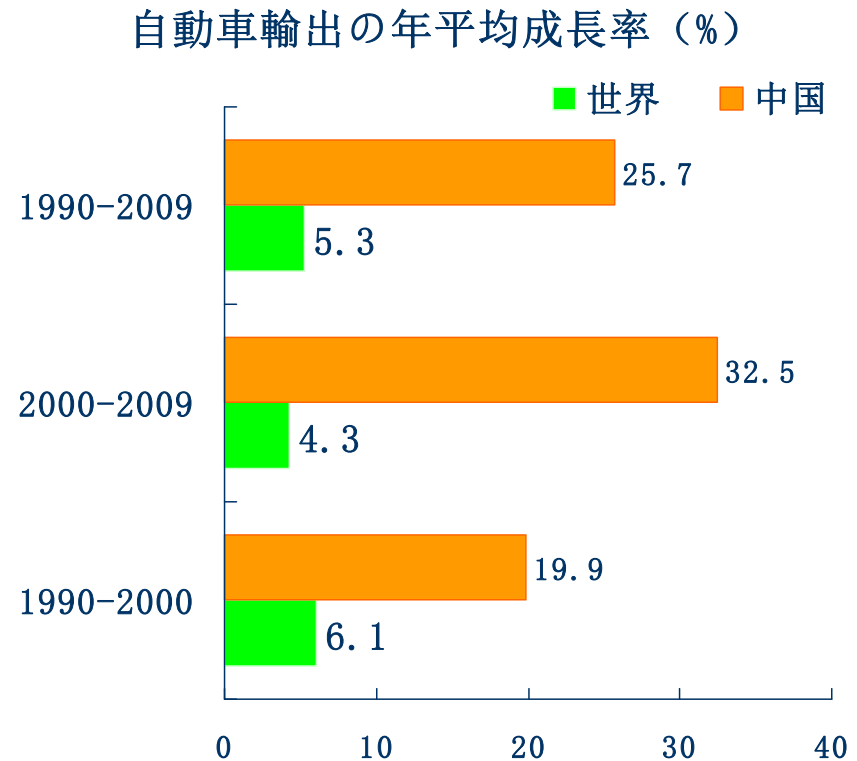
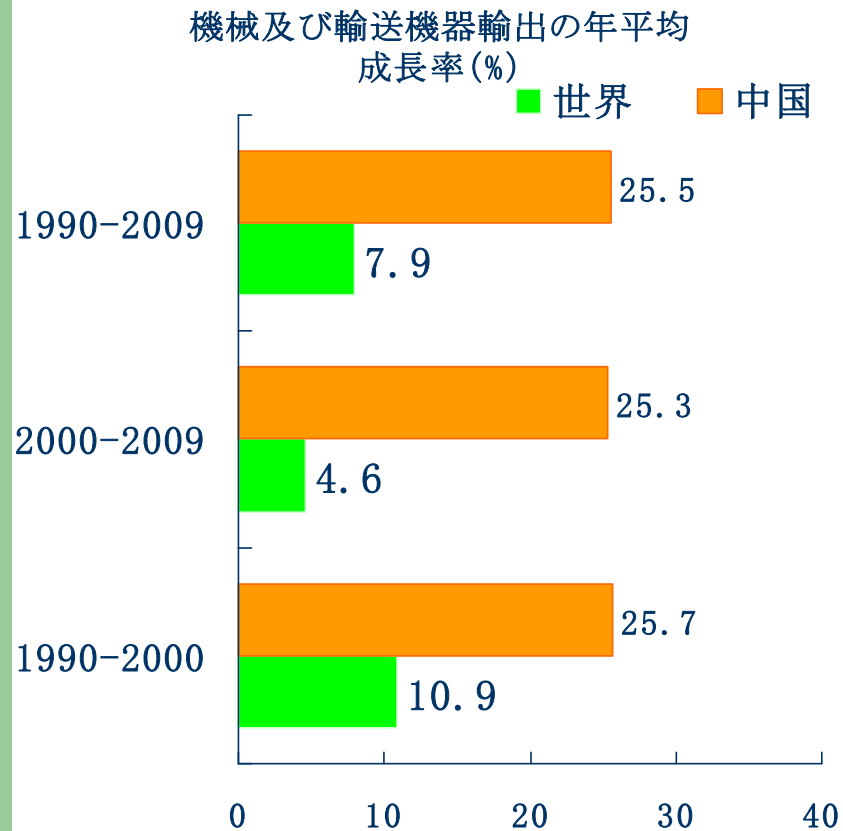
機械及び輸送機器の輸出が工業製品に占める比率 (%)



機械・輸送機器の貿易比率比較 (%)

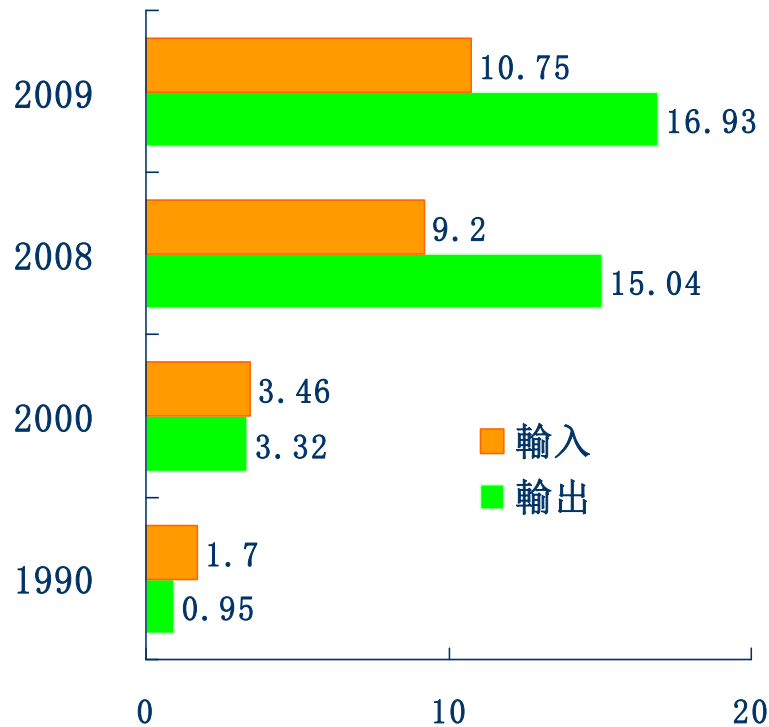


中国の機械輸出の成長速度は世界水準を上回る

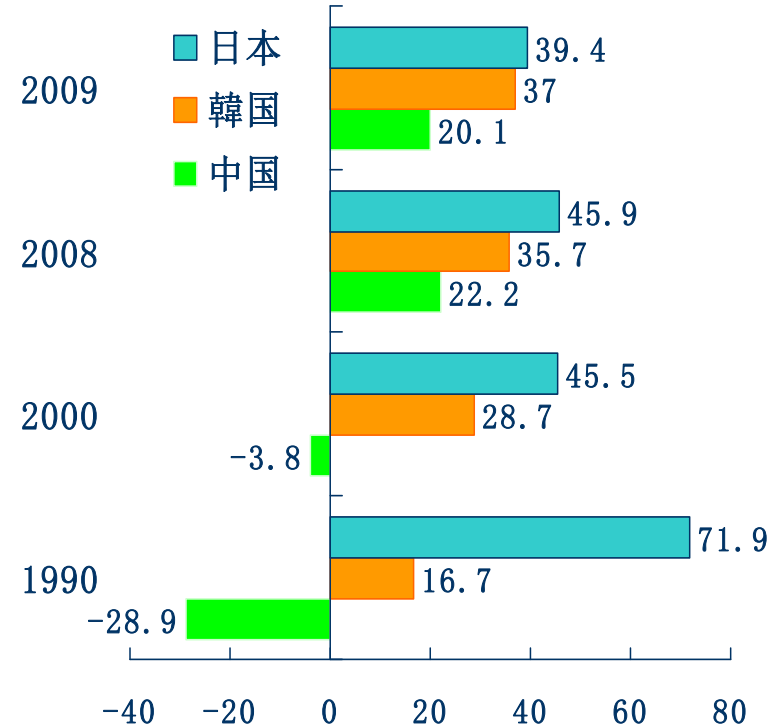


中国機械貿易の世界におけるシェアと競争力の向上

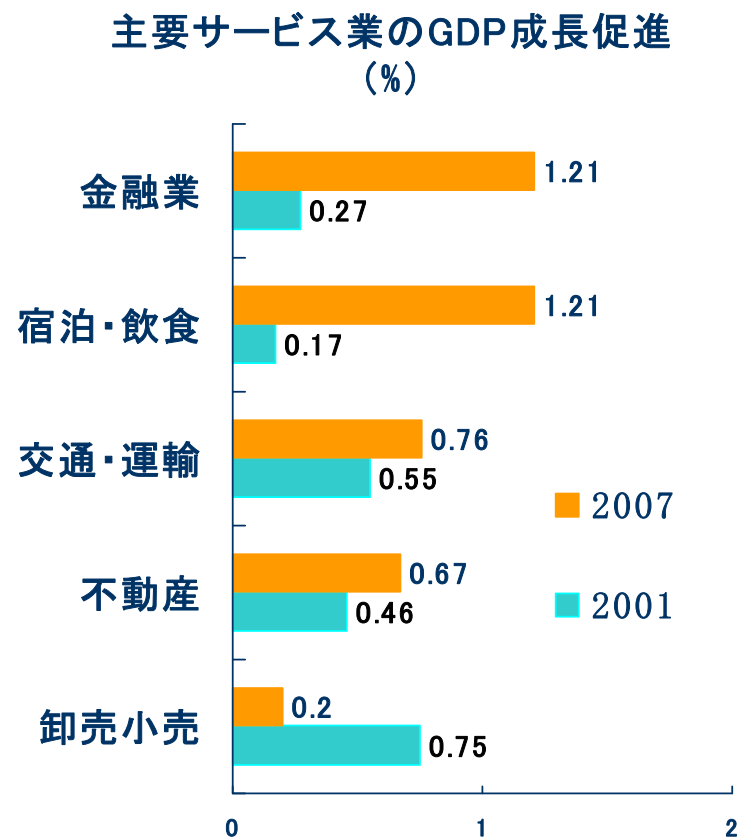
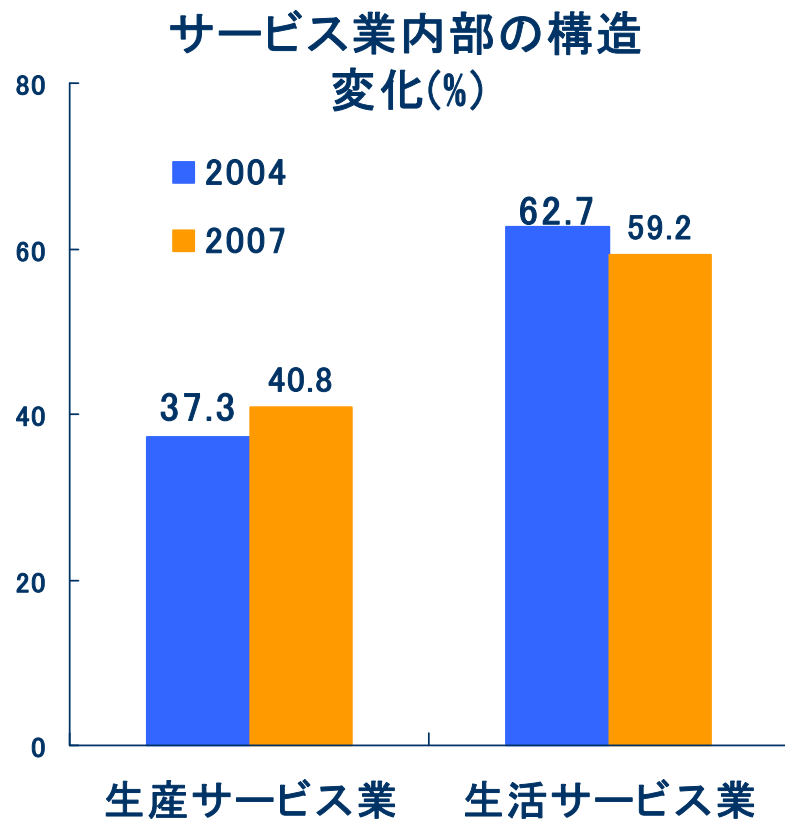
中国機械・輸送機器貿易の世界シェア (%)



機械・輸送機器貿易の競争力比較 (%)



サービス業の構造変化の主な特徴は生産サービス業の比率上昇



主な内容

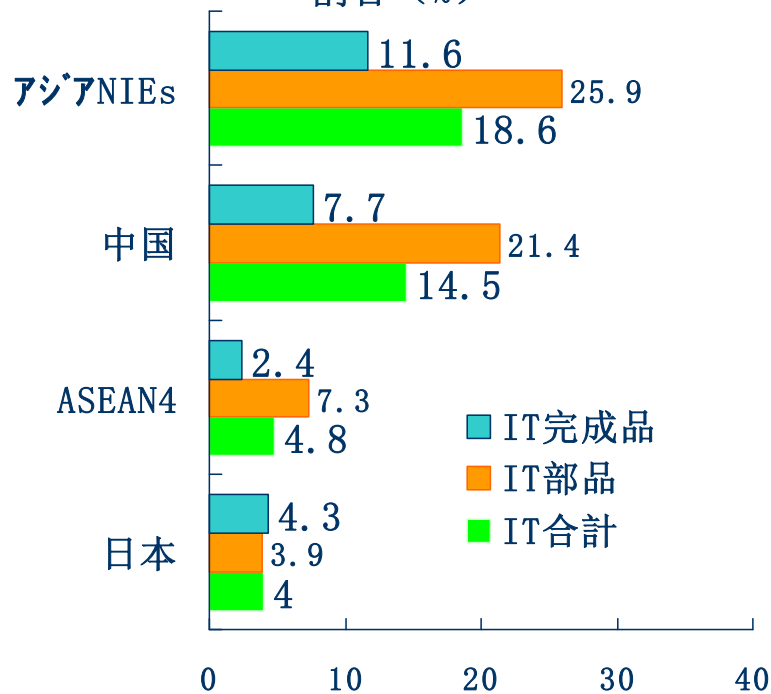
- 過去二十年における中国の産業構造の変化の主な特徴
- 産業構造の調整において直面する新たな状況と重要課題
- 2010-2030年産業構造の変化動向に対する展望

産業構造の調整において直面する新たな状況

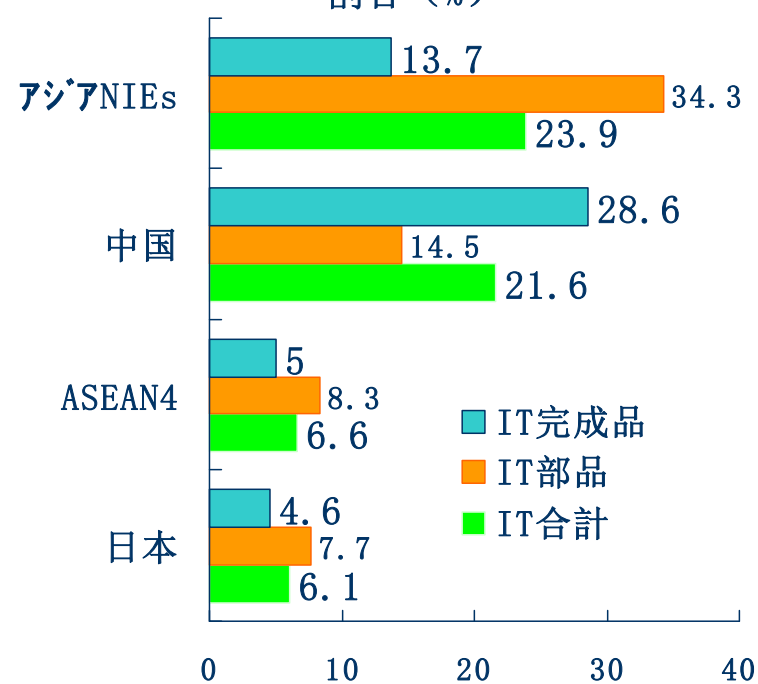
- 既存の内生的成長メカニズムが金融危機の影響で変化することはない。工業化と都市化は急速な発展期にあり、グローバル化は中長期的に意義のある新たな変化に直面するだろう
- 低コストという伝統的な優位性が徐々に失われ、新たな競争上の優位性を早急に獲得する必要がある
- 資源環境の圧力は引き続き増大し、かつ気候変動という新たな試練にも直面する
- 需給関係に新たな変化が起こり、重化学工業製品の不足および同産業の急成長という局面が今後も現れるとは考えにくい
- ポスト金融危機の時代、世界規模で新しい産業構造調整と科学技術革命が起こる

産業の分業は依然としてミドルレンジ ～ローエンド(IT)

2009年IT製品輸入が世界に占める
割合 (%)



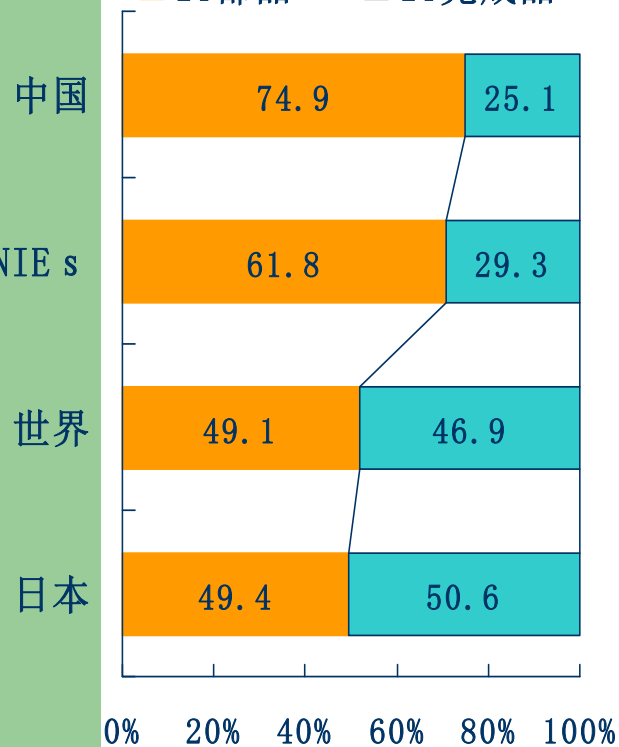
2009年IT製品輸出が世界に占める
割合 (%)



中国の産業構造のグレードアップは重大かつ長期にわたる

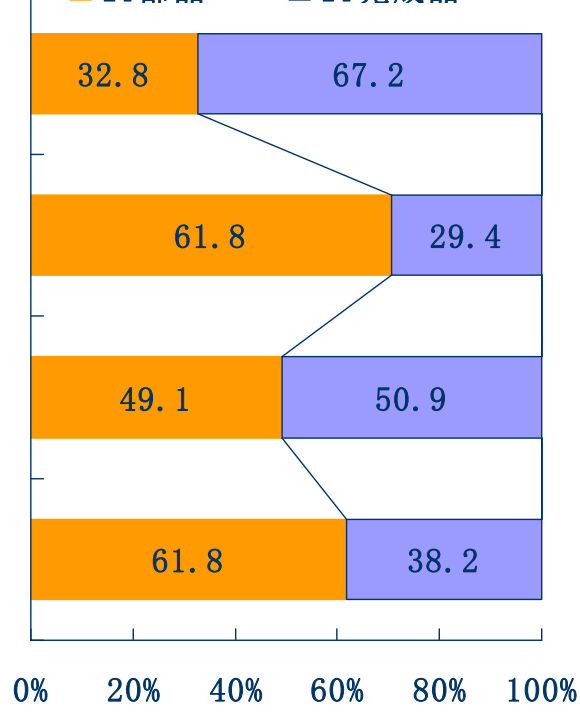
2009年IT製品の輸入構造 (%)

IT部品 IT完成品

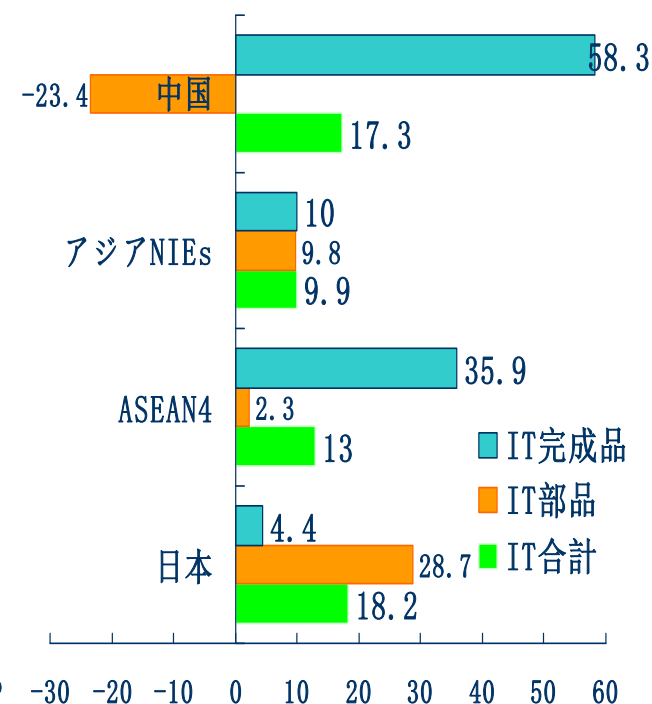


2009年IT製品の輸出構造 (%)

IT部品 IT完成品



2009年IT製品の貿易競争力 (%)



アジアNIEs

世界

日本

アジアNIEs

ASEAN4

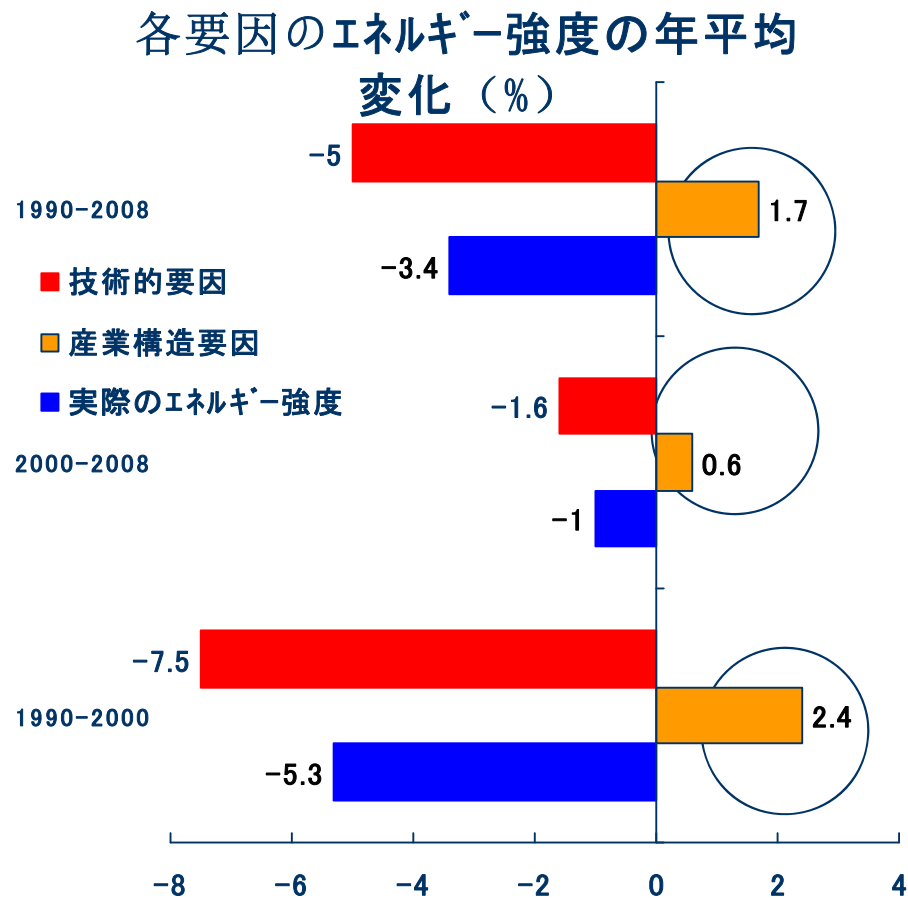
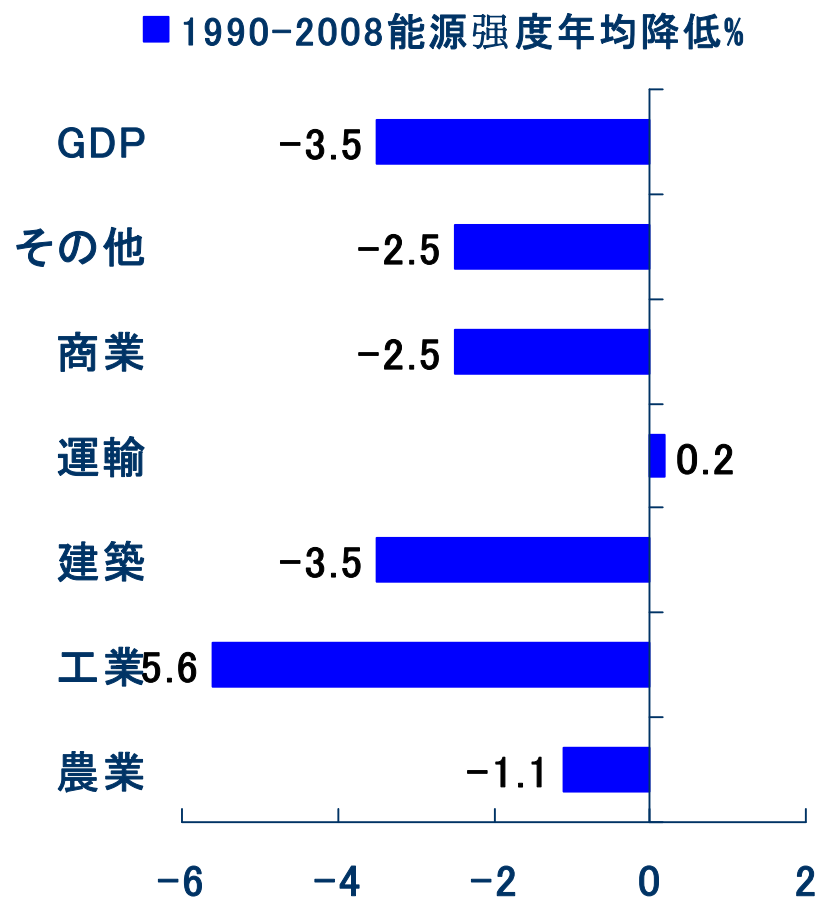
日本

IT完成品

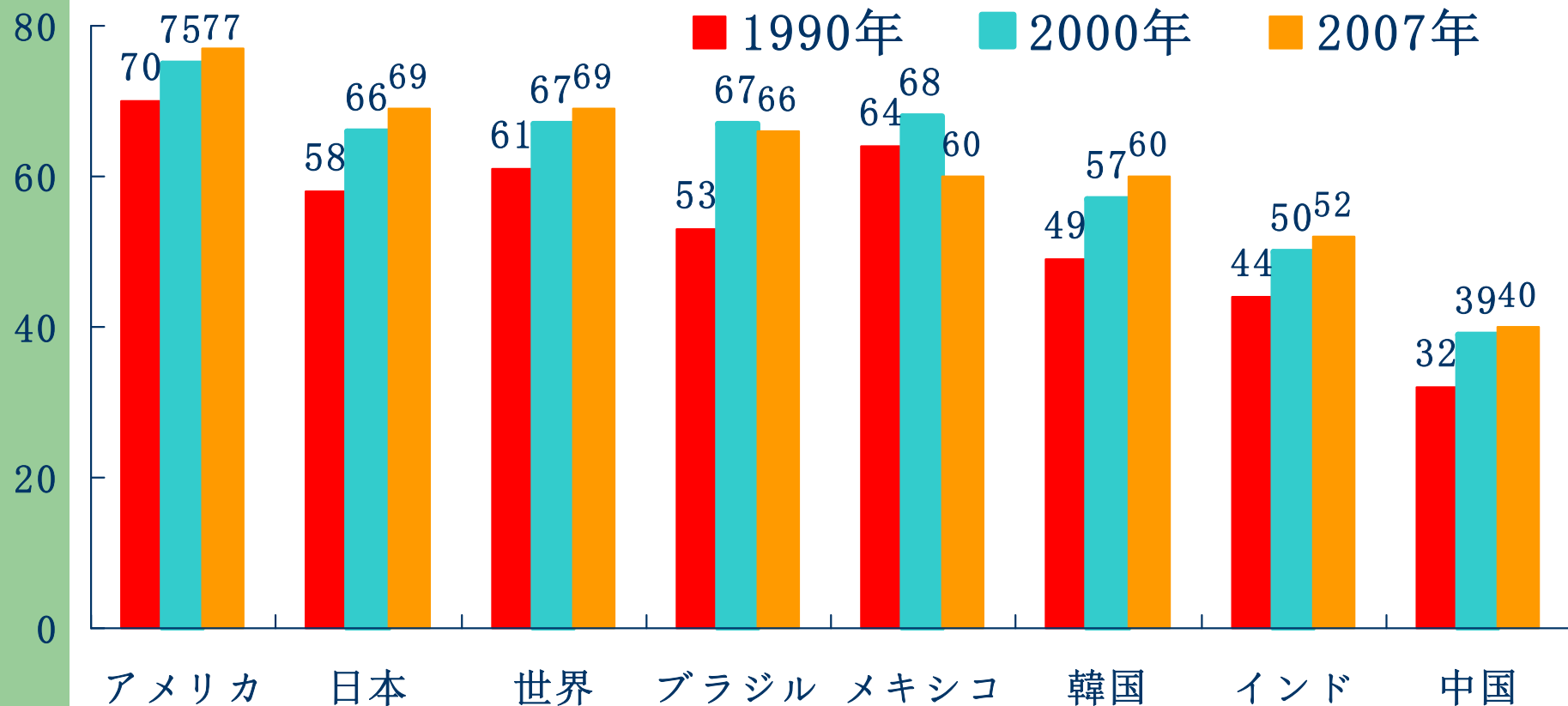
IT部品

IT合計

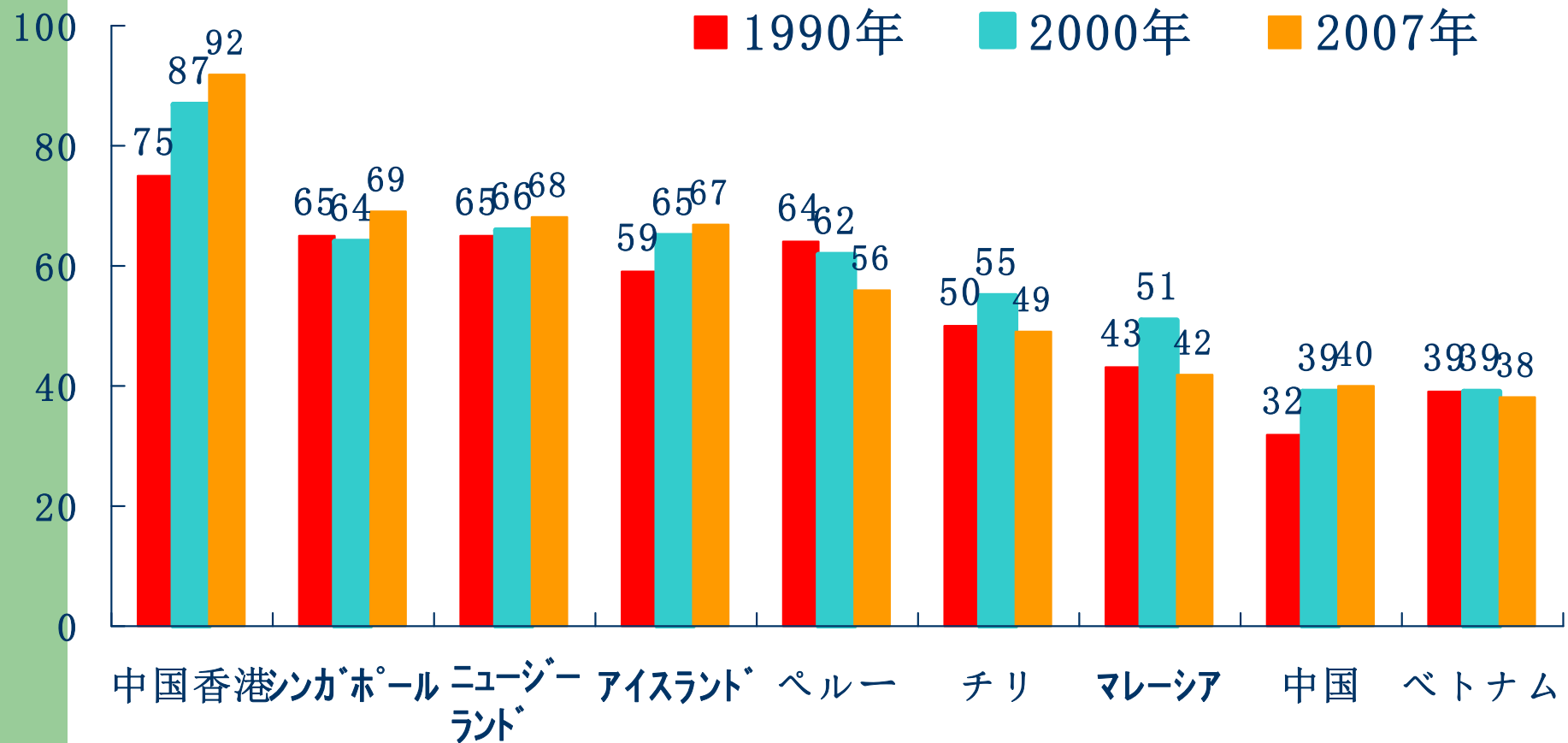
構造的要因によって省エネ効果が一部相殺されている



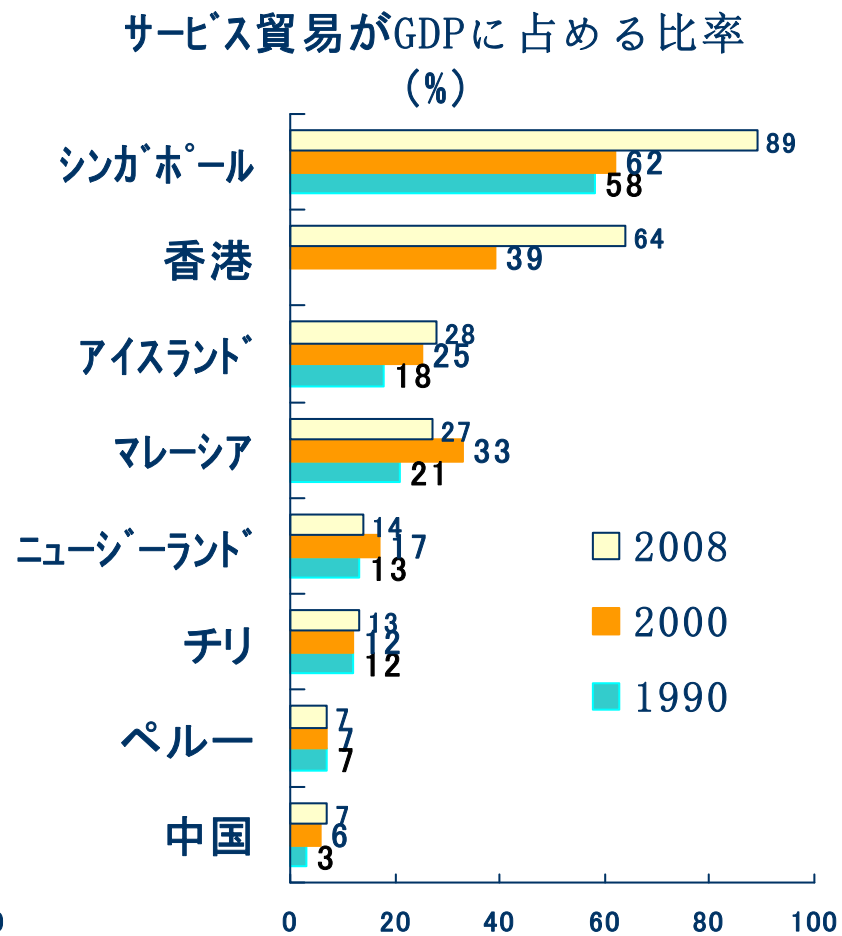
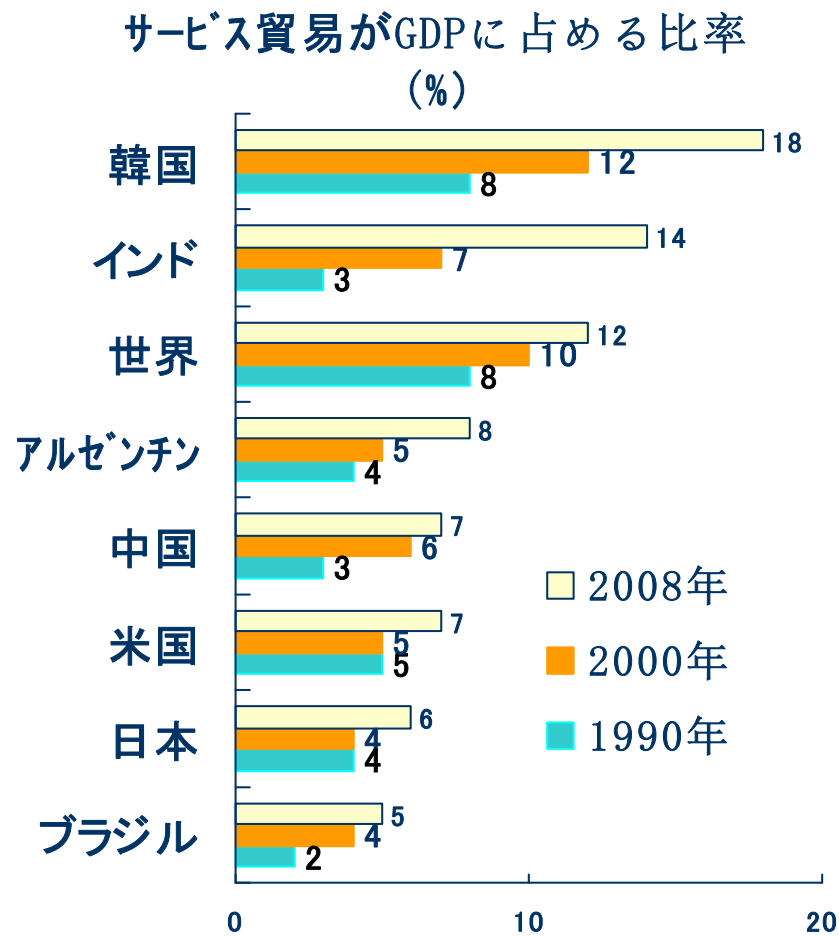
中国のサービス業付加価値の比率は世界の主要国より低い



主要FTA相手国のサービス業付加価値比率は中国より高い

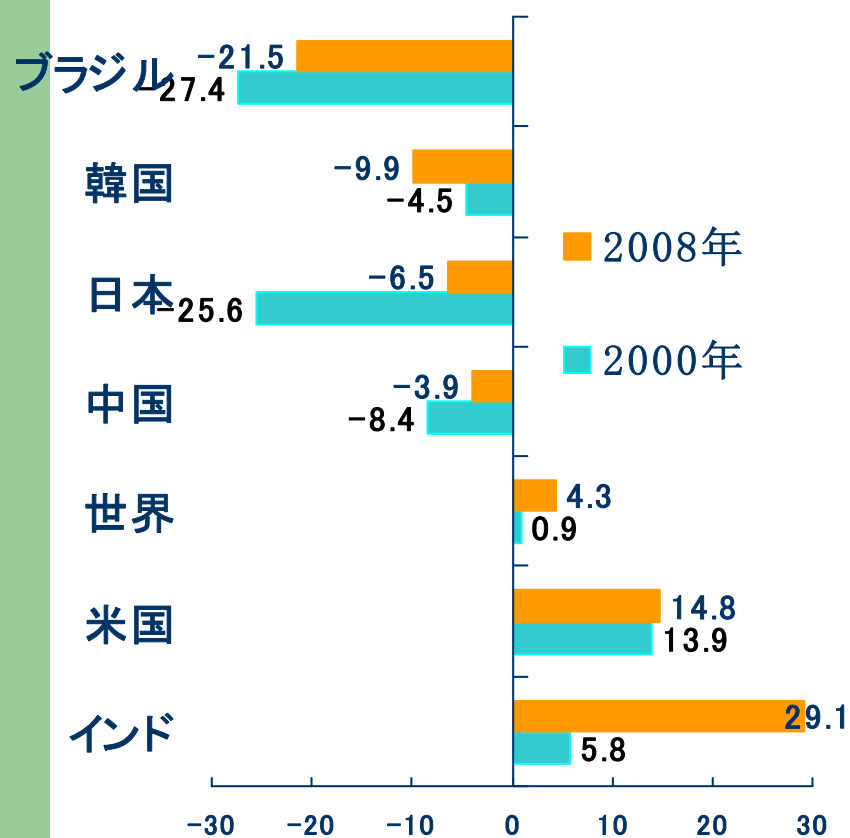


サービス貿易依存度は主要相手国より低い

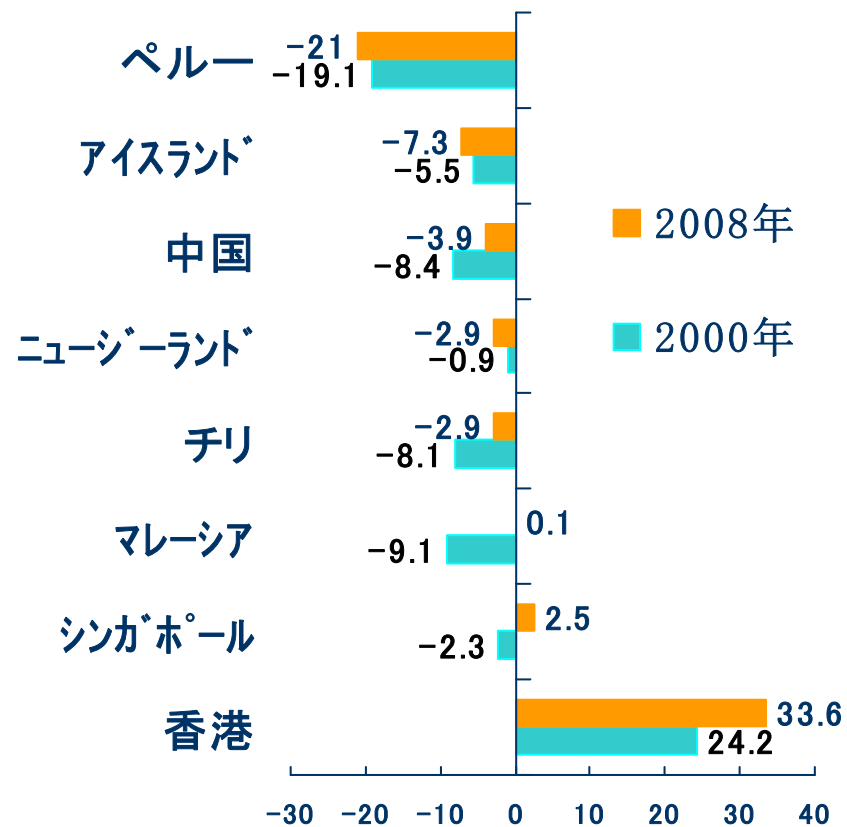


サービス貿易は長期にわたり赤字

サービス貿易競争力指数(%)

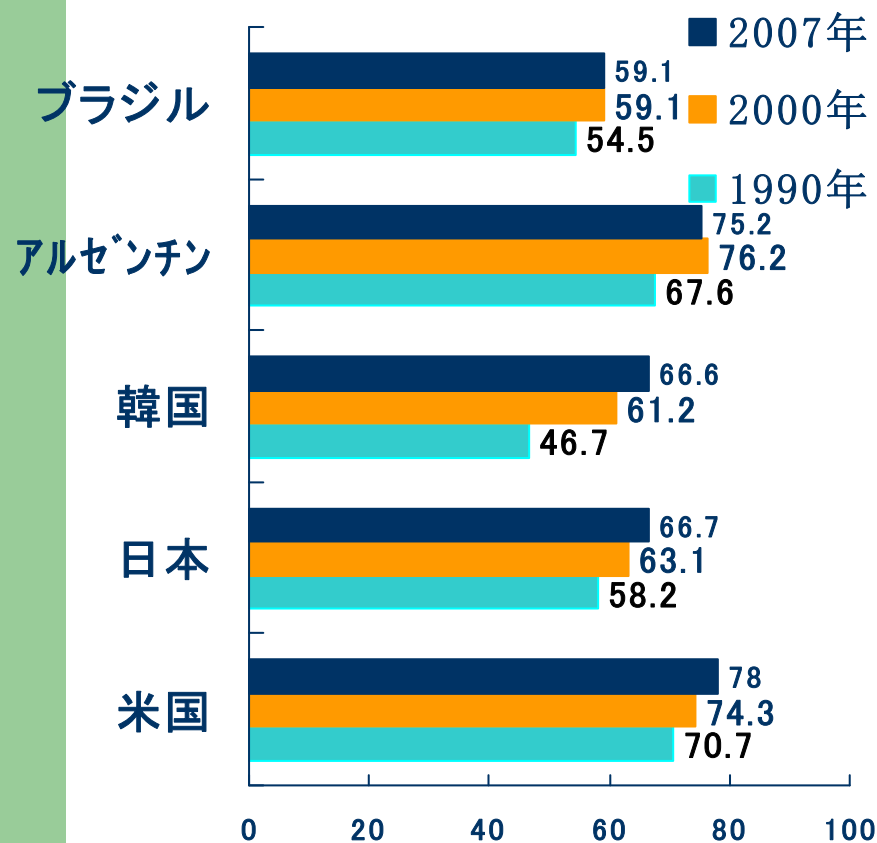


サービス貿易競争力指数(%)

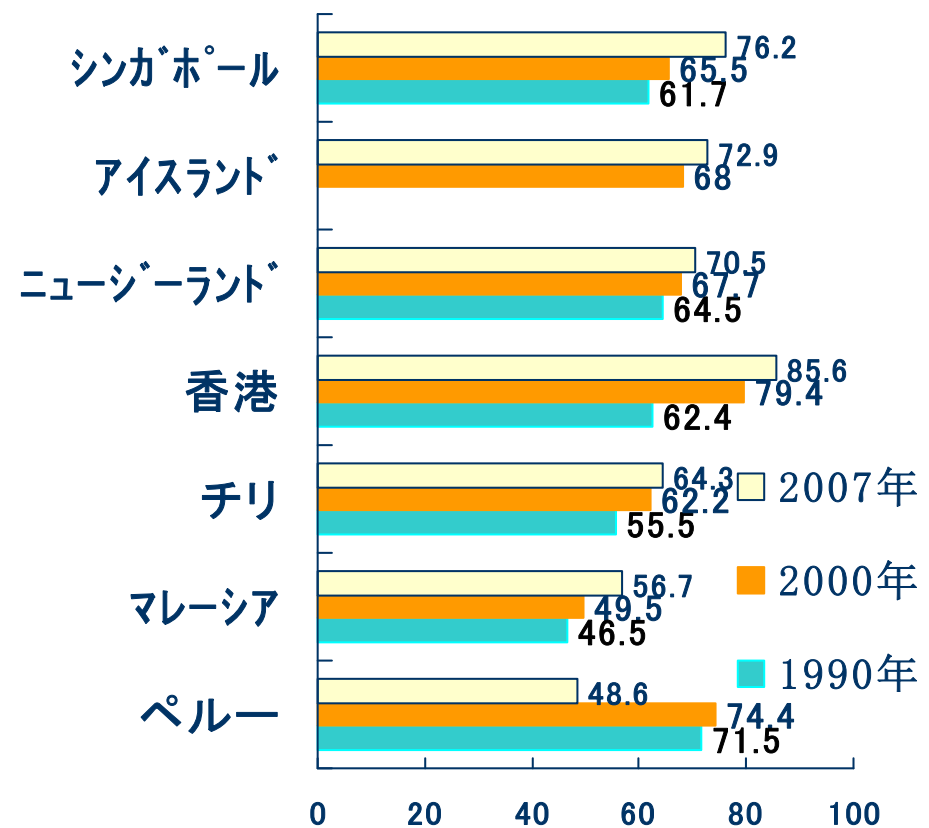


サービス業の発展促進は雇用の増大をもたらす

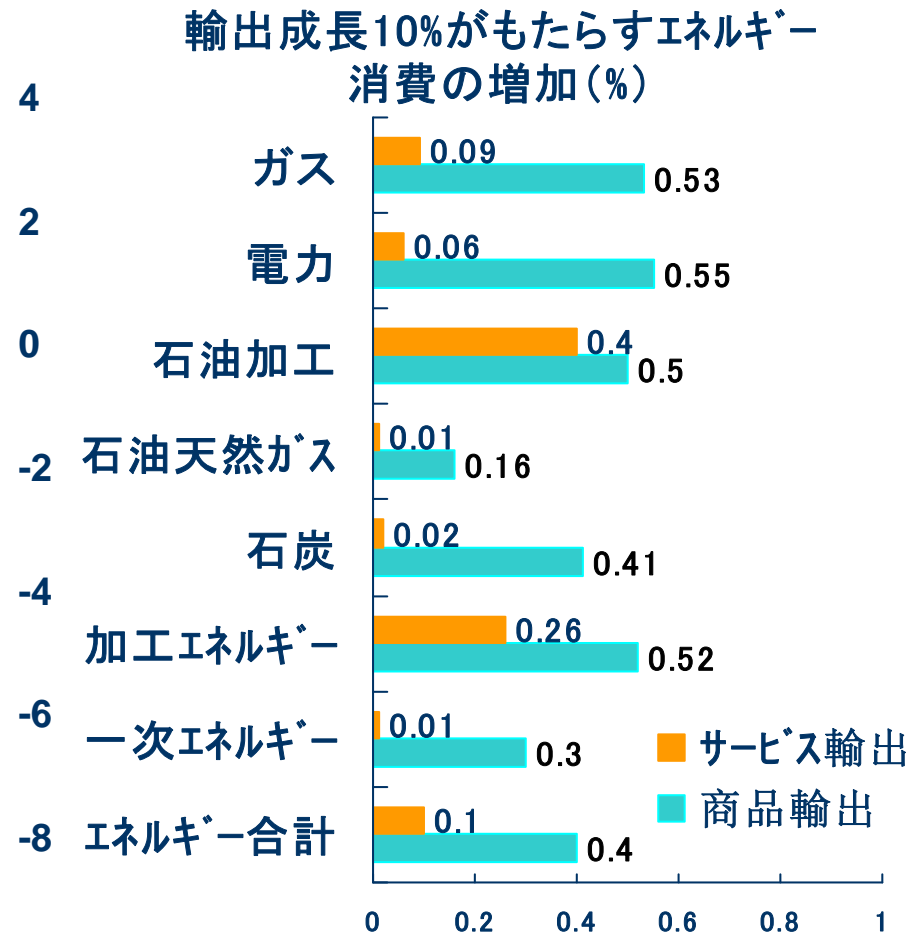
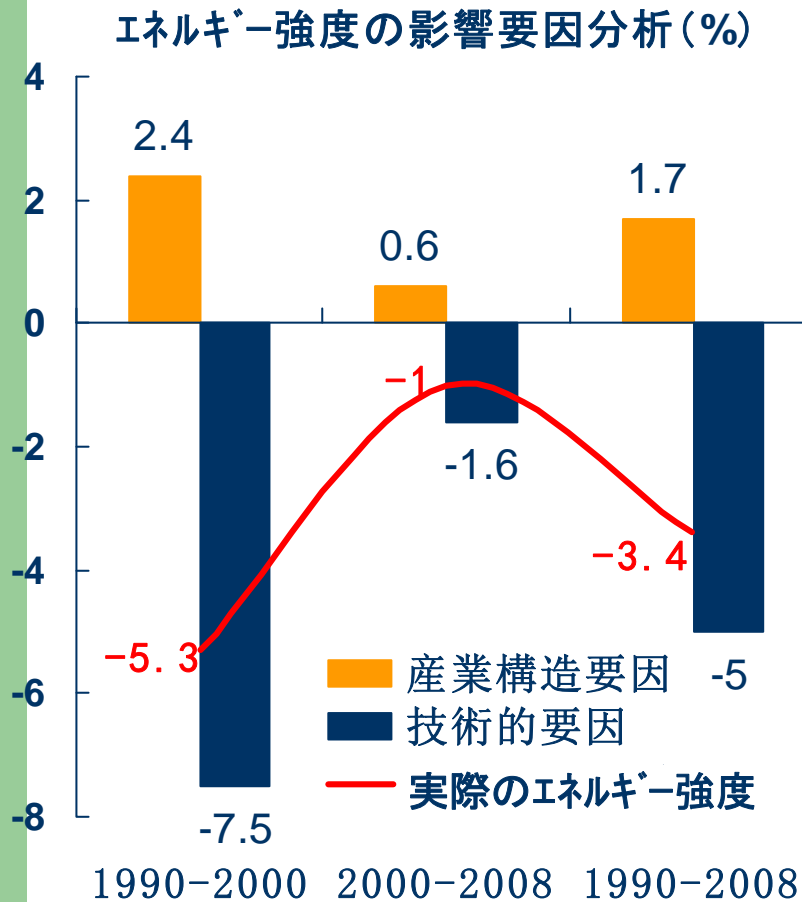
サービス業労働力の比率(%)



サービス業労働力の比率(%)



サービス業比率の上昇は構造的な省エネを促進する



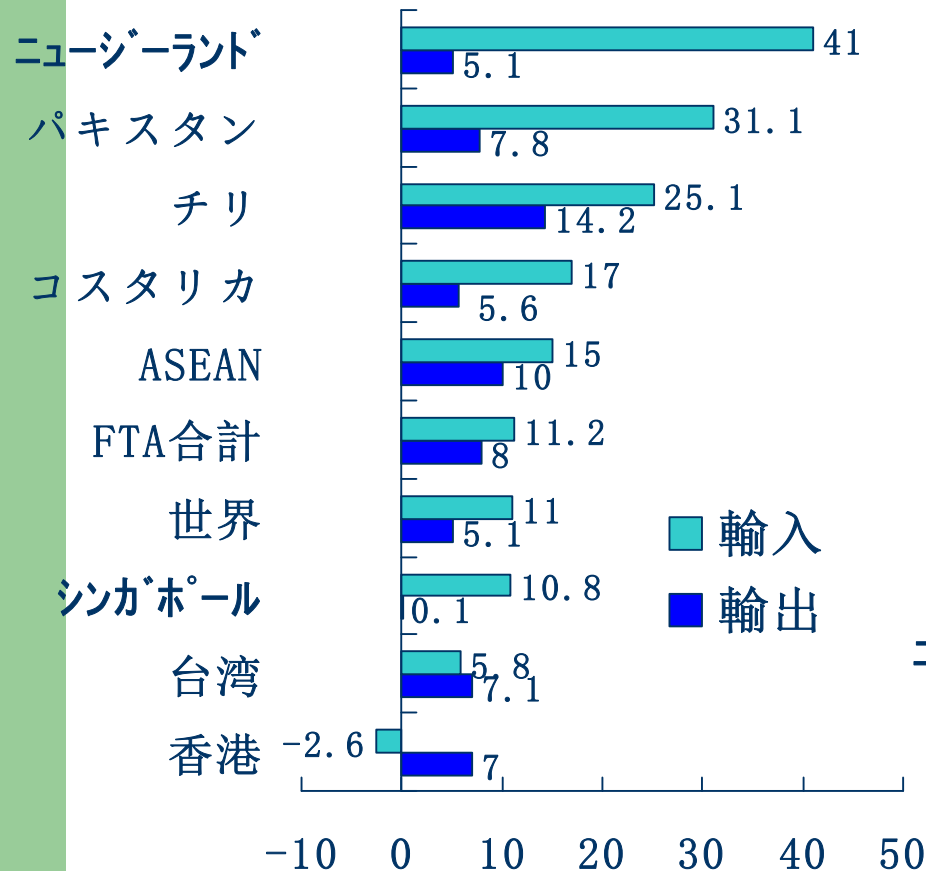
中国FTA戦略の実際の進展 —FTAの実施範囲はさらに拡大

- 中国はすでに、ASEAN、パキスタン、チリ、シンガポール、ニュージーランド、ペルー、コスタリカ、香港・マカオ地区、台湾地区の10の経済体とそれぞれに自由貿易協定(CEPAまたはECFAを含む)を結んでいる。
- 中国-湾岸協力会議、中国-オーストラリア、中国-ノルウェーの自由貿易協定交渉を積極的に進めている。
- 中国と10の自由貿易パートナー(ASEAN、パキスタン、チリ、シンガポール、ニュージーランド、ペルー、コスタリカ、香港・マカオ地区、台湾地区)との二国間貿易額は貿易総額の24%に達する。
- 2010年1-10月に中国の検査検疫機関が企業に発行した各自由貿易協定(香港・マカオとの経済・貿易関係緊密化協定およびアジア太平洋貿易協定は含まない)の特恵原産地証明書は全部で59.7万通、前年同期比70.5%の伸び、発行額は217.3億米ドルで、前年同期比104.3%の伸びであった。このうち、中国-ASEAN間の自由貿易のために発行した原産地証明書は40.9万通、前年同期比79.3%の伸び、発行額は142.8億米ドル、前年同期比120%の伸びで、対ASEAN輸出額の13%を占める。
- 税関の統計では、2010年に中国本土が香港からCEPA下で輸入した物品は8.83億米ドル、関税優遇は4.72億米ドルで、それぞれ前年同期比28.86%、23.52%の伸びであった。マカオからのCEPA下での輸入は839.60万米ドル、関税優遇は401.99万米ドルで、それぞれ前年同期比96.94%、38.14%の伸びを示した。

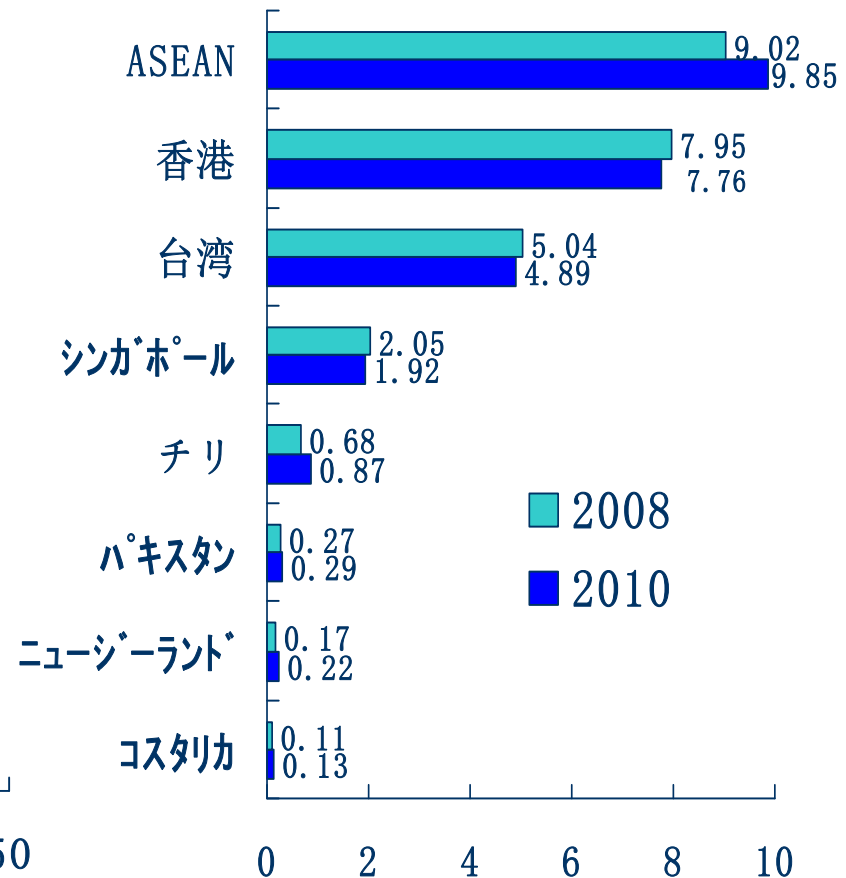
CAFTAは中国-ASEANの経済・貿易取引を 高速車線に乗せる

—ASEANは数年で日本を追い抜き中国第三の貿易パートナーになる見込み

2008-2010年貿易年平均増加率 (%)



2008-2010年二国間貿易比率の変化



中国とASEANのFTAが産業別貿易に与える影響に関する予測(2004) —— 2004年CGEモデルに基づき推算(2002年GTAPデータ、30部門)

| | | 輸出増加 | | |
|------|--------------|--|-------------------------------|----------------|
| | | 高成長(20%以上) | 一般成長(0~20%) | マイナス成長(0以下) |
| 輸入増加 | 高成長(20%以上) | 飲料・タバコ、石油製品・コークス、その他交通手段、非鉄金属加工鍛造、輸送・郵便、野菜・果実、採掘業、電子製品、自動車、非金属鉱物製品 | 林業、木製品(家具は含まない)、加工食品、動物及び動物製品 | 漁業、皮革及び皮革製品、衣類 |
| | 一般的成長(0~20%) | 穀物、基礎鉄鋼加工鍛造、その他農産物、機械設備機器、金属製品、紙・印刷出版、化学工業・ゴムプラスチック製品 | 紡績品、その他サービス、商業、その他完成品 | 建築、ガス・水道・電気 |
| | マイナス成長(0以下) | | | |

中国とASEANの産業別貿易の実際の成長 (2008-2010)

—税関の統計に基づき、2008-2010年の年平均成長速度により分類

| 輸入の年平均成長は 31.7% | | 輸出増加(2008-2010年の年平均成長は9.9%) | | |
|--------------------|------------------|----------------------------------|--|---------------------------|
| | | 高成長(20%以上) | 一般成長(0~20%) | マイナス成長0以下) |
| 輸入 増加 | 高成長 (20%以上) | その他製品、プラスチック・ゴム、植物製品、靴・帽子・傘、動物製品 | 紙製品、輸送設備、食品、精密機械、非金属鉱物製品、電気・電子設備、化学工業製品、平均 | 金属及び金属製品、木製品、宝石・貴金属、動植物油脂 |
| | 一般的成長 (0-20%) | 鉱物製品 | 紡績品 | |
| | マイナス成長 (0以下) | | 皮革・毛皮 | 未分類商品、芸術品 |

中国の産業構造調整の重要課題

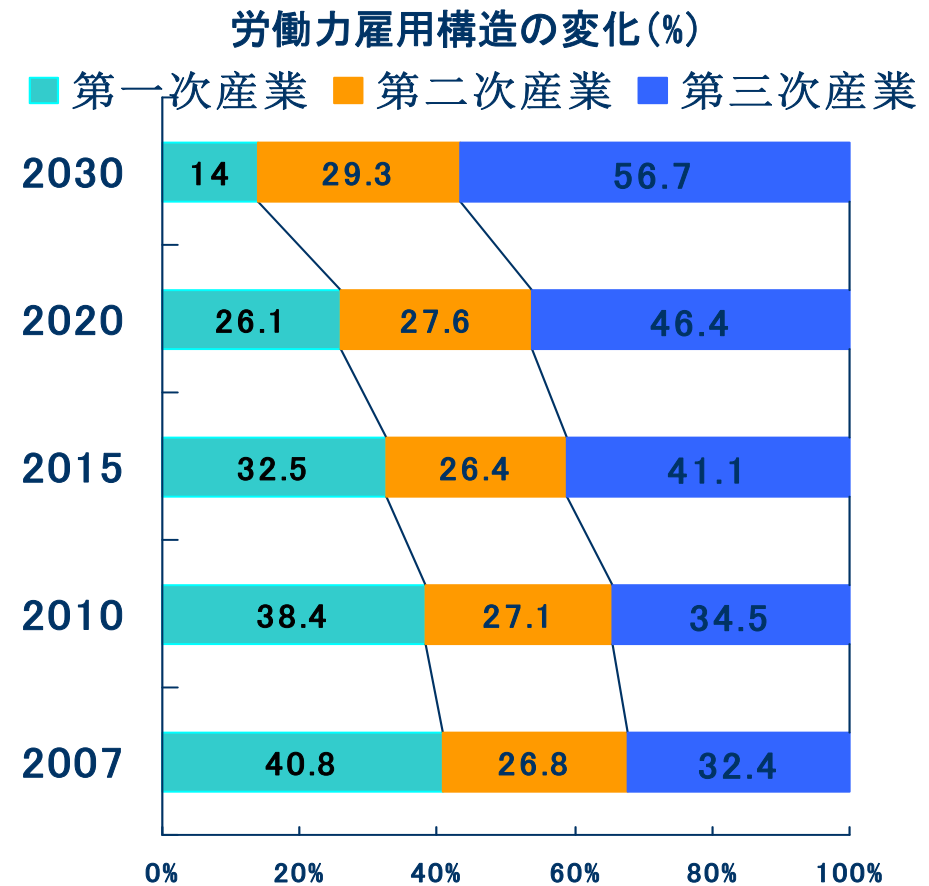
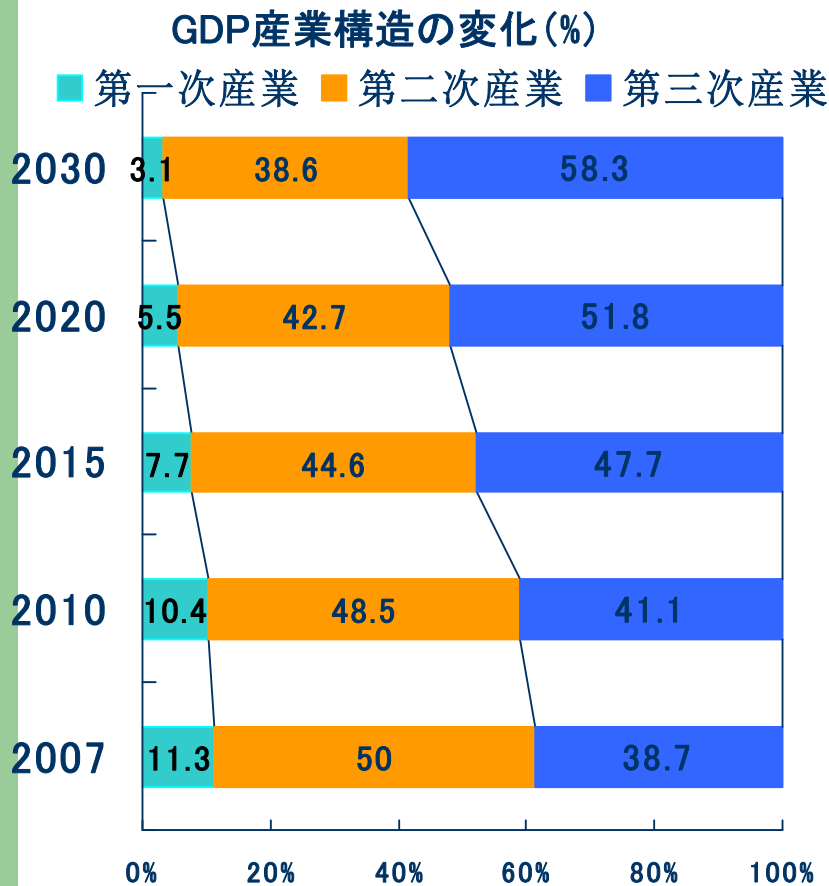
- (一部要修正) 工業とサービス業が「ダブル牽引」する成長構造と、工業とサービス業が相互に促進し支え合う発展構造を創りあげ、技術のイノベーション力を核として、経済発展方式の転換を推進する
- 伝統産業の転換とグレードアップを促進し、競争力をさらに高める
- 全国規模で経済の合理的配置を図り、産業の中西部地区への段階的移動を、既存の競争力を維持する重要な手段としなければならない
- グリーン経済、低炭素経済を積極的に発展させる
- 戦略的新興産業を速やかに発展させる

主な内容

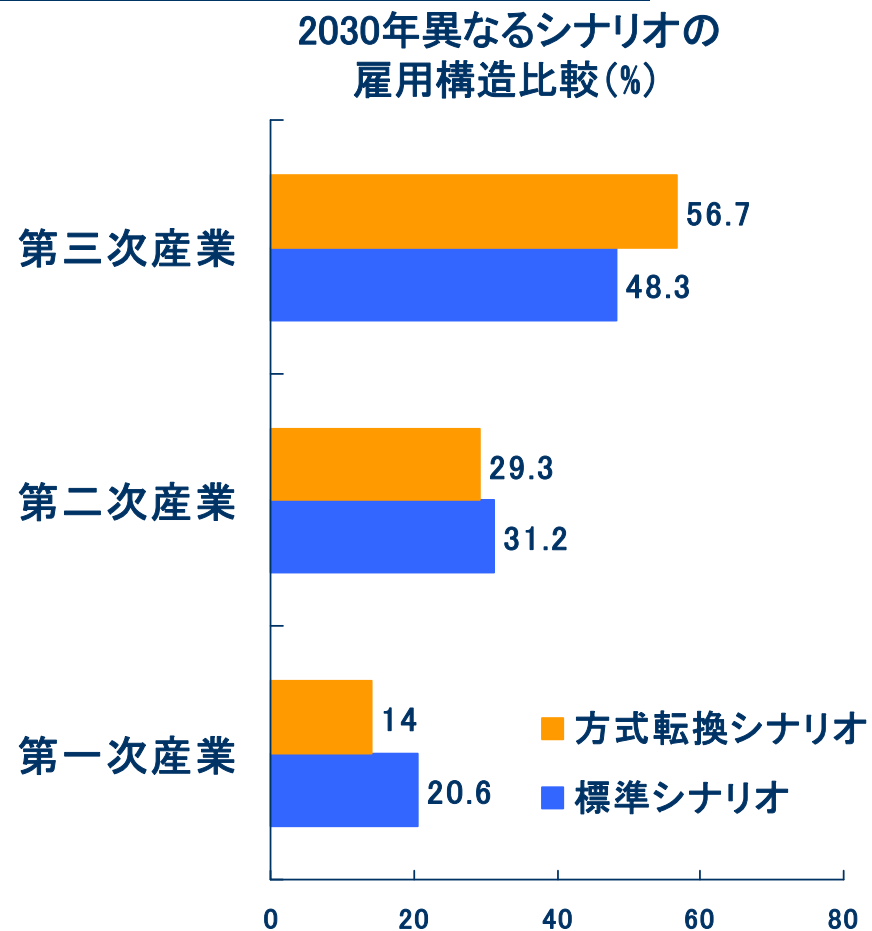
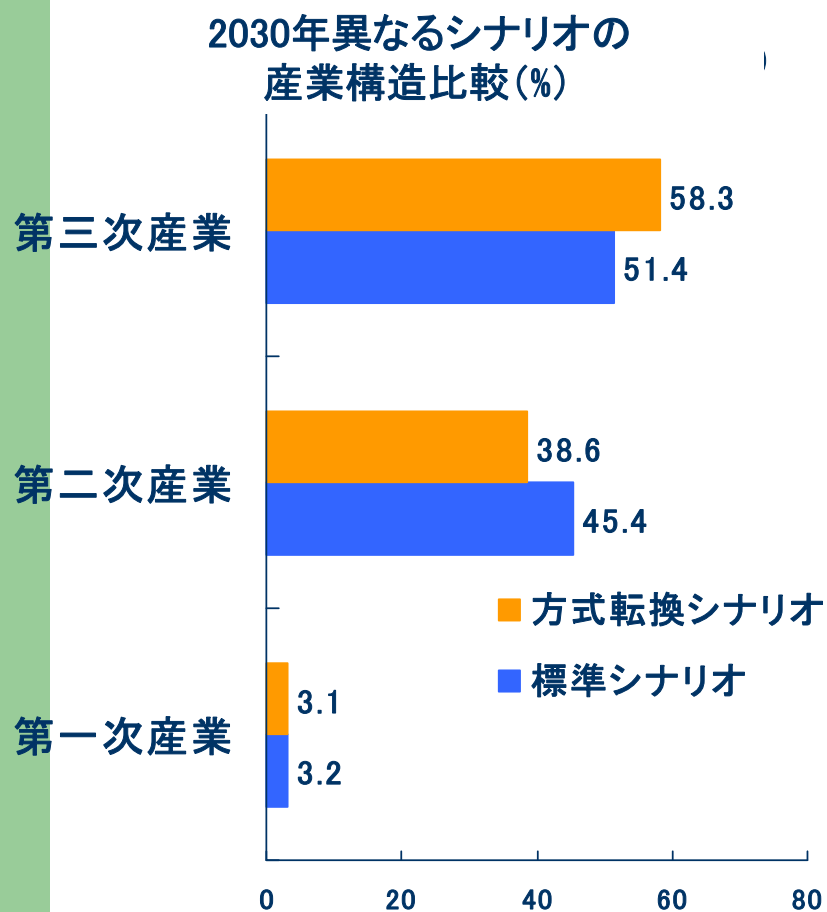
- 過去二十年における中国の産業構造の変化の主な特徴
- 産業構造の調整において直面する新たな状況と重要課題
- 2010-2030年産業構造の変化動向に対する展望

2010-2030年は産業構造のグレードアップがさらに加速

—とくに注記した場合を除き、予測データはすべて李善同と何建武の報告(2011)に基づく

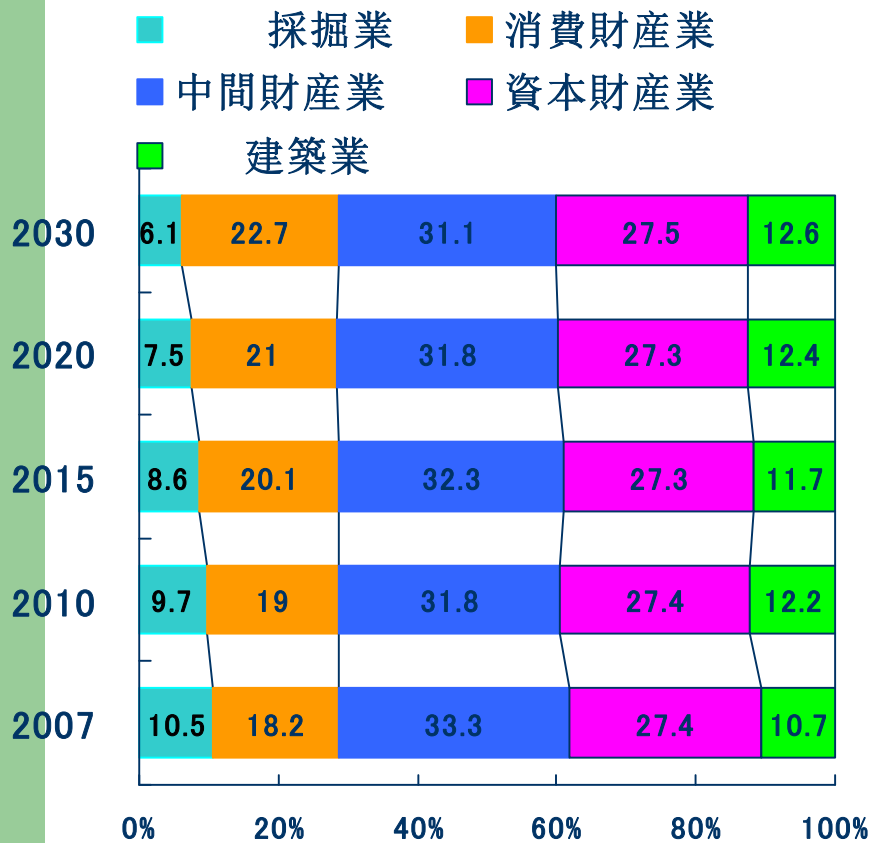


発展方式の転換は構造のグレードアップを促進する

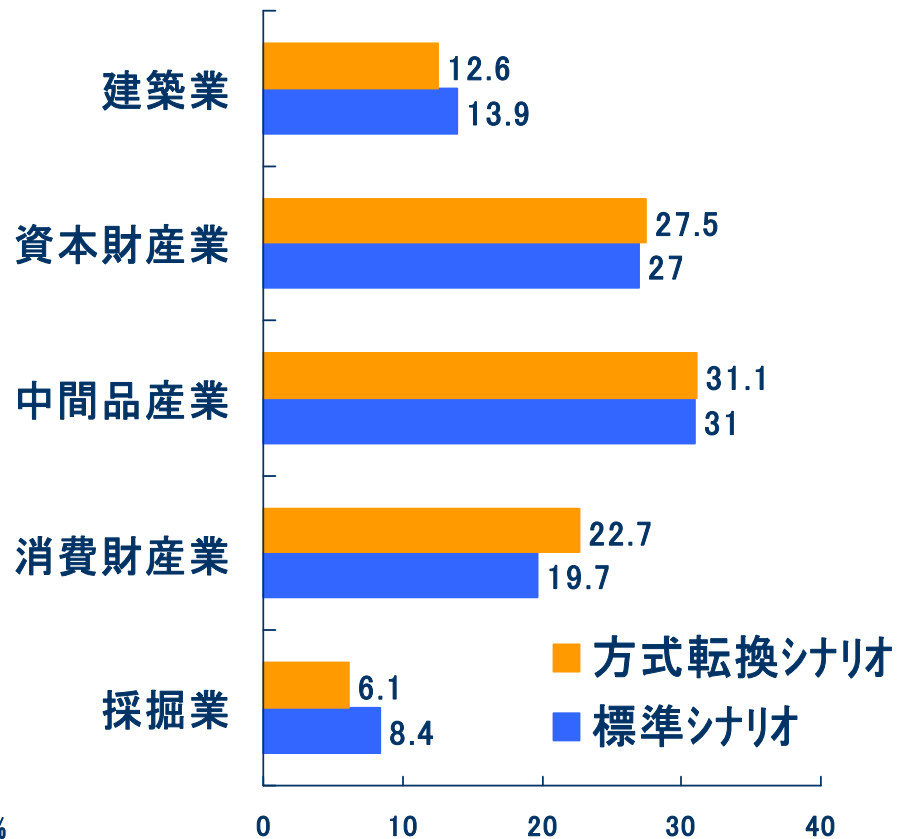


第二次産業の内部構造のグレードアップが引き続き实际的な進展を見せる

第二次産業構造の変化(%)



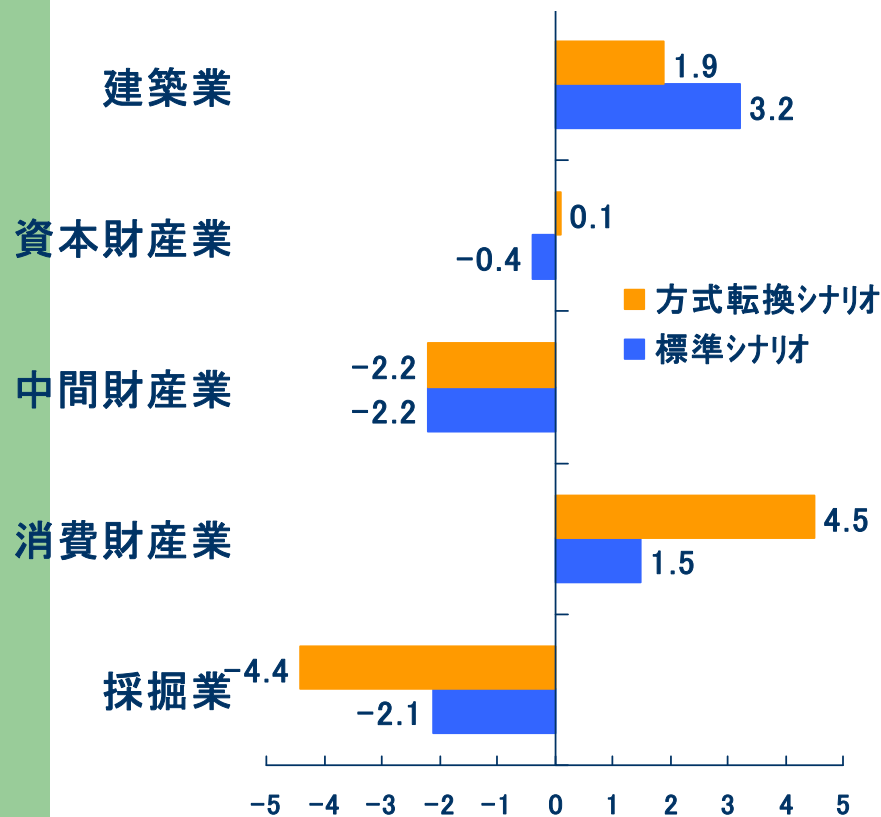
2030年第二次産業構造の比較(%)



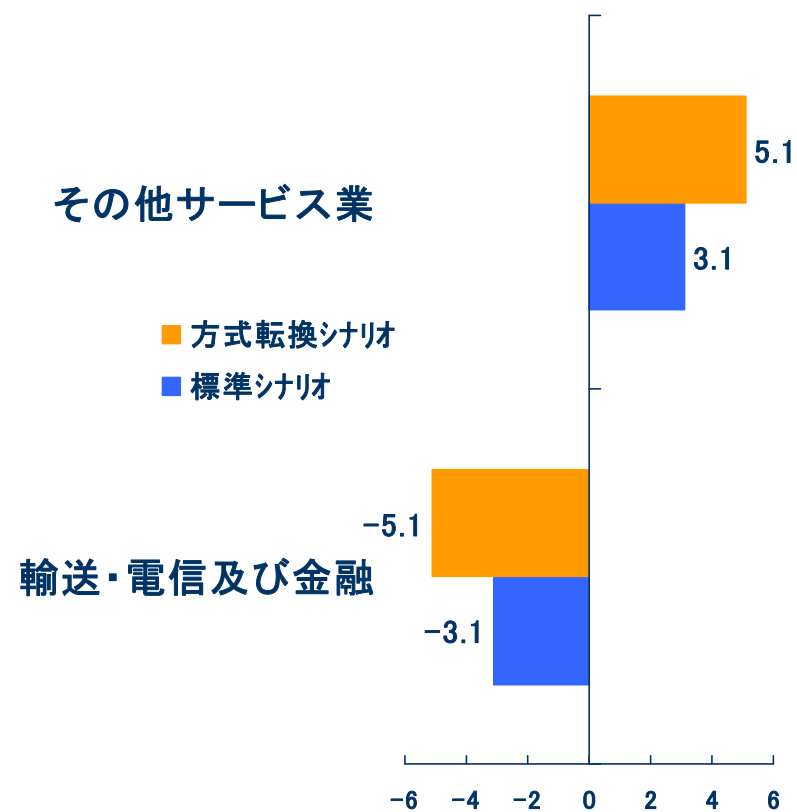
発展方式の転換が工業とサービス業の内部構造の グレードアップを加速させる

工業は消費財・資本財産業の比重が上昇、サービス業は生活サービス業の比率が向上

2007—2030年第二次産業構造の変化(%)

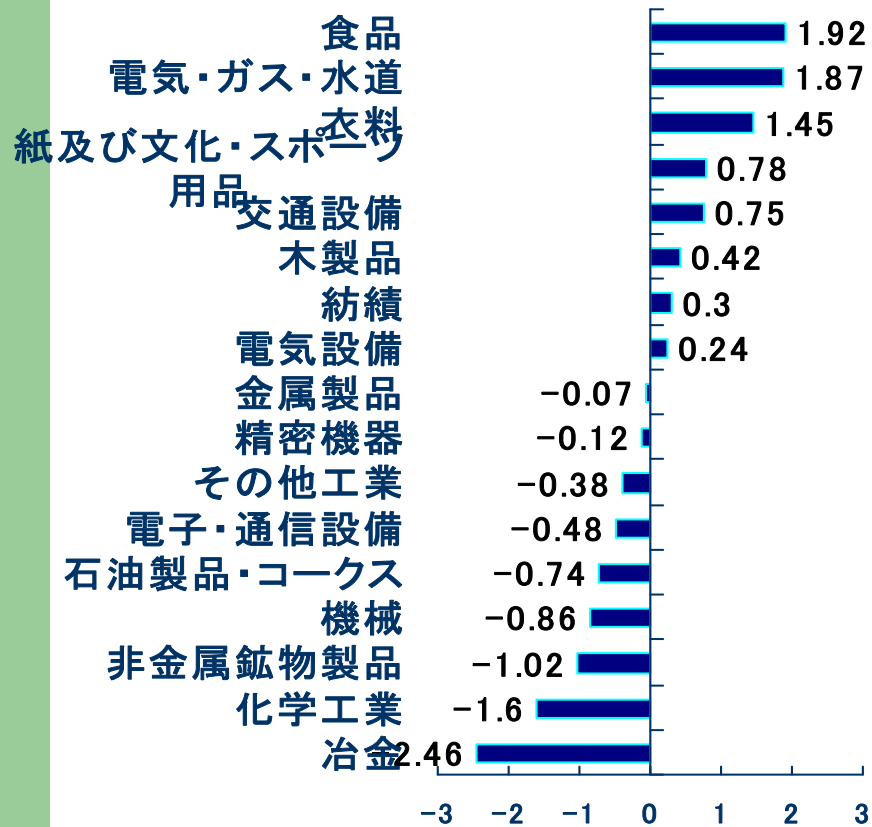


2007—2030年サービス業構造の変化(%)

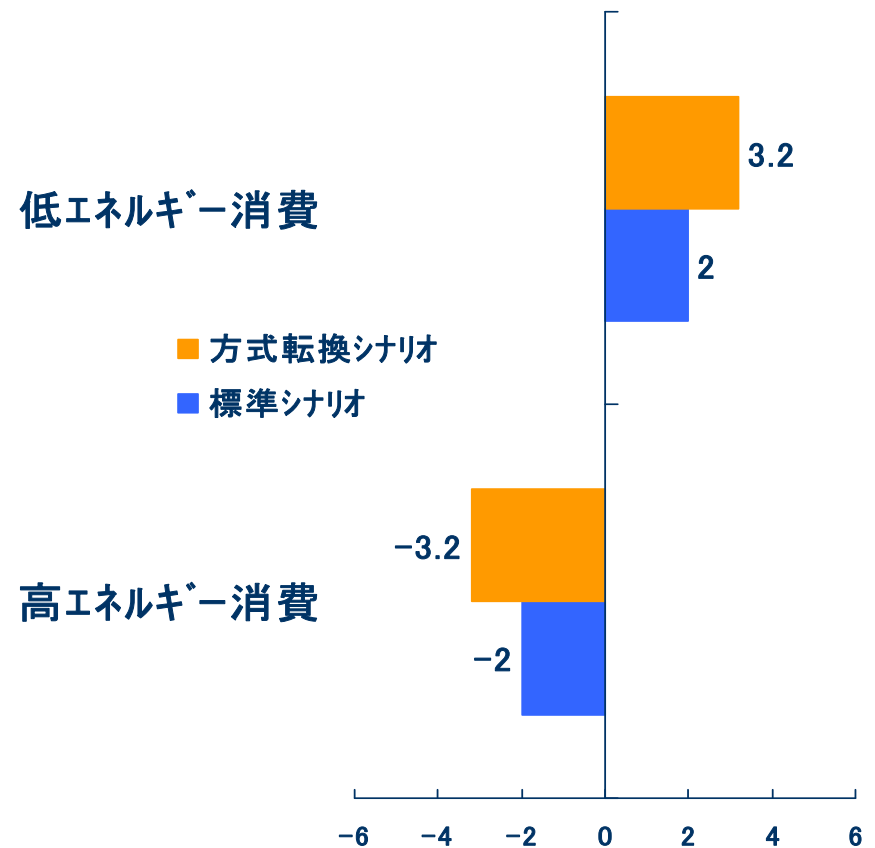


製造業における消費財と低エネルギー消費産業の 比重が上昇 —消費需要の拡大に応え、省エネ・排出削減を利する

■ 2007-2030年の比率変化 ポイント

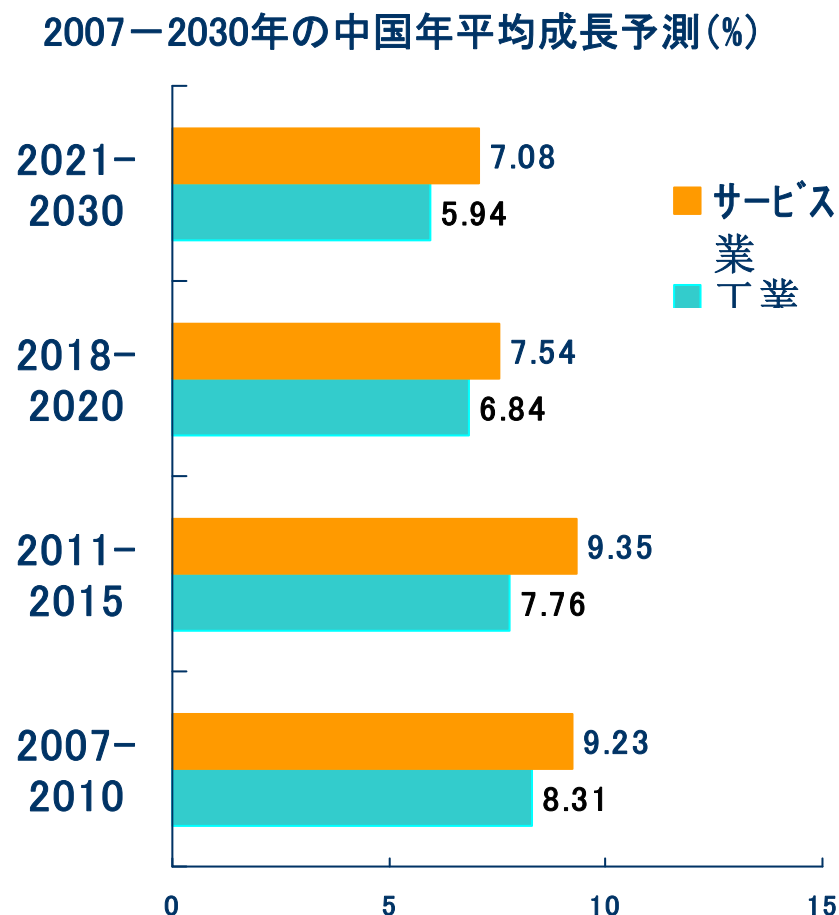
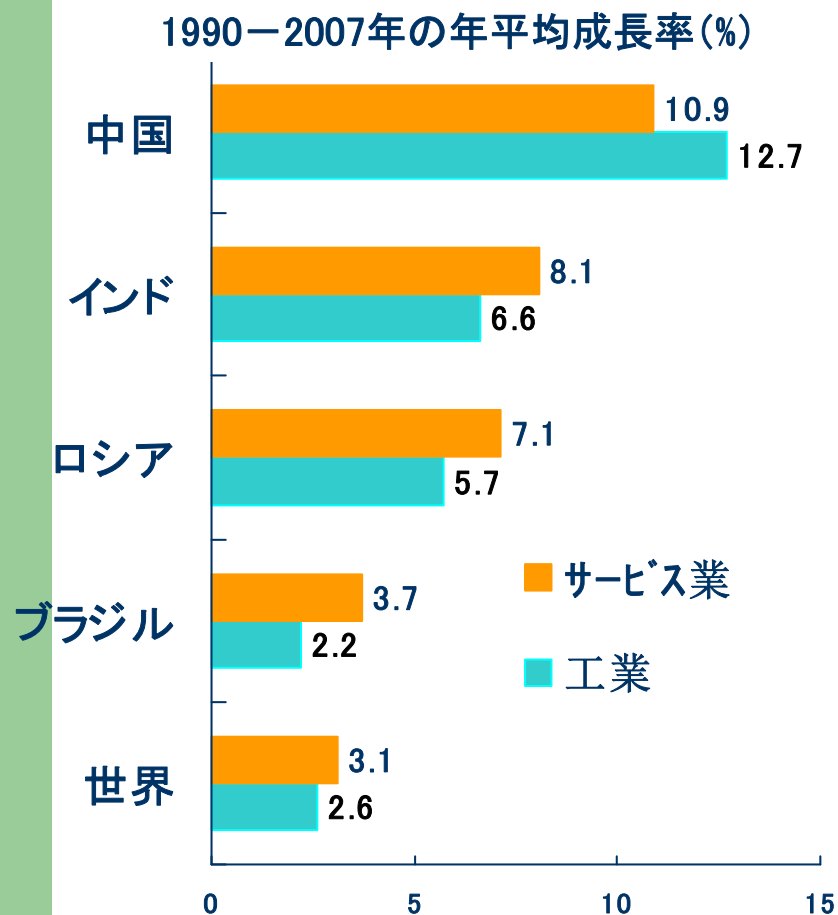


2007-2030年エネルギー消費構造の変化(%)



中国の製造業とサービス業は世界の平均水準を上回る 比較的速い成長速度を維持する見込み

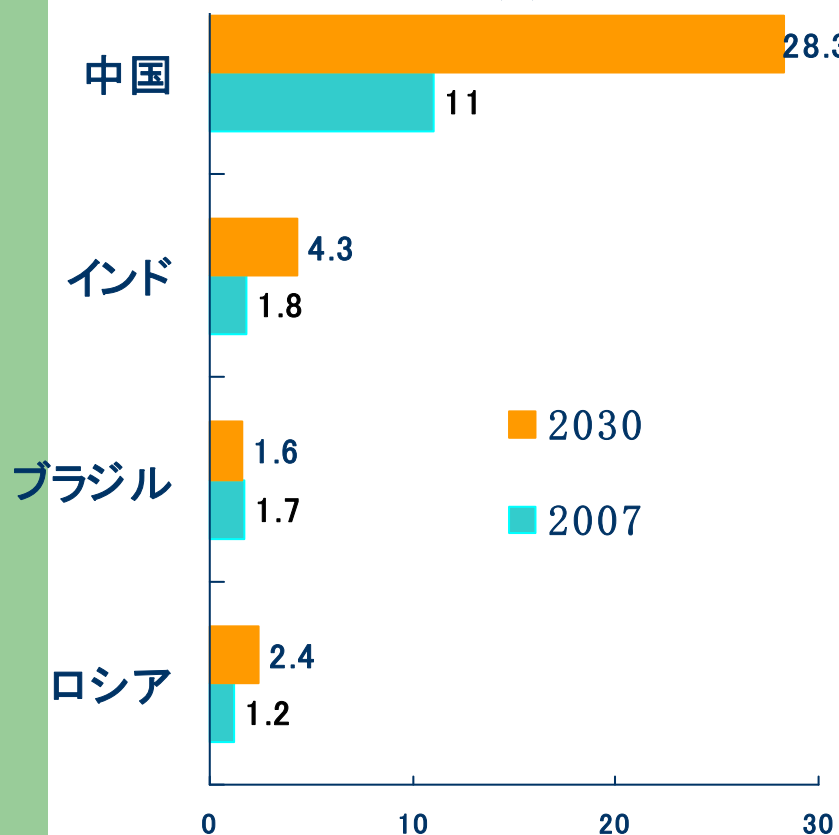
— 国外のデータは世界銀行2000年米ドル不変価格付加価値統計から、
ロシアは2000-2007年の平均成長速度から



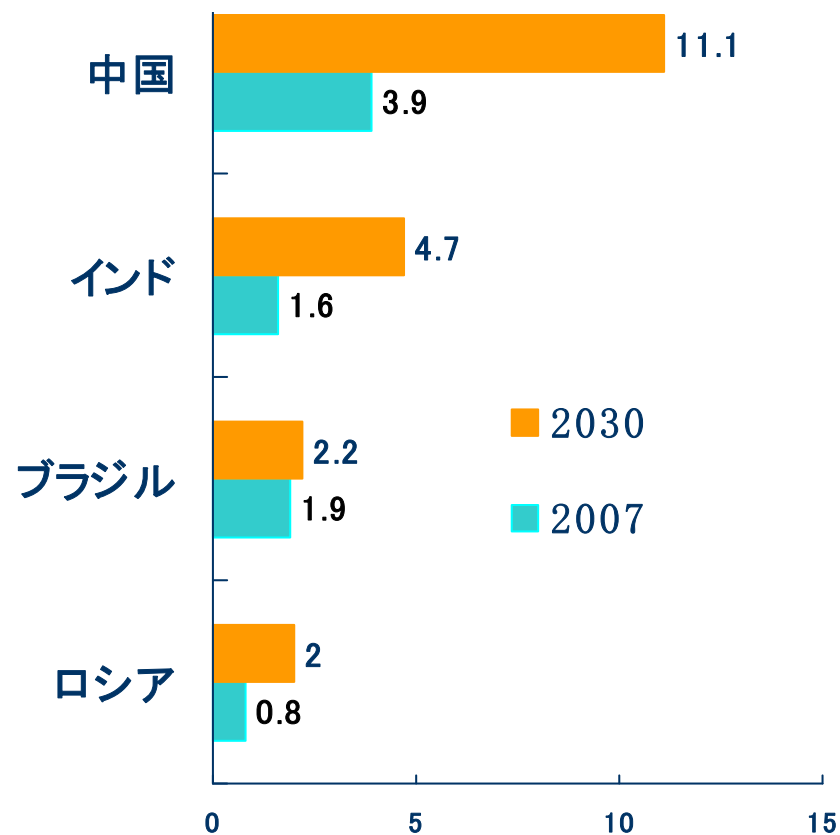
2030年主な新興経済体の工業とサービス業が世界に占める比率とその変化

—データの出典は世界銀行2000年米ドル不変価格統計、中国の年平均成長速度はDRCCGE予測の結果から、世界およびその他経済体は1990-2007年の平均成長速度に基づいて推算、ただしロシアのデータは2000-2007のデータ

2030年各国の工業付加価値が世界に占める比率 (%)



2030年各国のサービス業付加価値が世界に占める比率 (%)



結論

- ・ サービス業が工業に代わって最大のリーディング産業となり、経済発展段階は2020年ごろに工業化の段階を終え、ポスト工業化の初期段階に入る見込み
- ・ 内需の拡大が積極的な進展を見せ、消費財産業と生活サービス業の成長が他の産業より速く、その比率が明らかに上昇する
- ・ 経済発展方式の転換が加速的に進む中、ハイテク技術産業と近代サービス業が急速に発展し、経済全体に占める比率が上昇する
- ・ 製造業の中では高エネルギー消費産業の比率が下降し、サービス業の比率が上昇、経済全体のエネルギーと重要資源の消費を抑え、グリーン経済の発展推進の助けとなる
- ・ 工業は引き続き世界で比較的優勢を保ち、サービス業は世界での影響力が明らかに向上する

Thank You !

2011年3月9日 / 東京

